



令和8年度 兵庫県立大学 社会価値創造機構 年報

兵庫県公立大学法人 兵庫県立大学 社会価値創造機構

Institute for Innovation and Social Value Creation, UNIVERSITY OF HYOGO

令和8年7月発行

目次

巻頭言	理事兼副学長 社会価値創造機構長	畑 豊	1
社会価値創造機構について			2
	社会価値創造機構副機構長 武尾 正弘		3
1 産学連携に関する新しい動き			5
2 放射光産業利用支援本部			8
3 水素エネルギー共同研究センター			9
4 データ計算科学連携センター			10
5 人工知能研究教育センター			11
6 金属新素材研究センター			12
7 地域創造センター			13
8 プロジェクト研究			14
9 研究センター一覧			17
10 兵庫県立大学価値共創シンポジウム2025			19
11 イノベーション・ジャパン2025			21
12 「地域企業連携型・卒業研究事業」及び「企業・大学院連携研究事業」について			22
13 インキュベーションセンター			23
14 産学連携活動			24
14-1 市町・商工関係団体との連携活動			
14-2 金融機関との連携活動			
14-3 はりま産学交流会との連携活動			
14-4 その他関係機関との連携活動			
14-5 各種マッチングフェアへの参加			
15 産学連携支援機関等との連携体制			33
15-1 産学連携協定の状況			
15-2 兵庫県立大学産学連携（学外）コーディネーター			
16 兵庫県立大学異分野融合若手研究者 Science & Technology クラブ（S Tクラブ）			40
17 外部資金			42
17-1 外部資金の推移			
17-2 令和7年度 外部資金の部局別受入状況			
18 知的財産マネジメント室			47
19 産学連携キャリアセンター			49
20 社会価値創造機構運営委員会・知的財産委員会			50
(1) 社会価値創造機構運営委員会			
(2) 知的財産委員会			
●社会価値創造機構業務概要			
●共同研究・受託研究等			
●社会価値創造機構コーディネーター等紹介			
●研究者マップ・研究者データベース			
●社会価値創造機構の沿革			

巻 頭 言

ご 挨拶

理事兼副学長 社会価値創造機構長 畑 豊



兵庫県立大学は、「知の創造」と「地域・社会への実装」を大学の重要な使命として掲げ、教育・研究成果を産業界や地域社会と共有しながら、新たな社会価値の創出に取り組んでいる実践的教育を推進しています。

その中で、2年前に発足した社会価値創造機構は、本学における産学官連携、地域連携、イノベーション創出の中核組織として、企業の皆様との共創を目指して活動してきました。研究シーズと産業ニーズを結び付けるのはもちろん、社会課題の解決や新産業創出に向けた実践的な連携を重視し、地域とともに持続的な価値創造を実現しています。さらに、今後の戦略的な包括連携協定の締結・活用や、それらに伴う大型外部資金の獲得を推進するため、2025年に包括連携推進室を設置しました。

本機構は、播磨地域の「じばさんびる」(JR 姫路駅南口)、神戸地域の「新長田ランチ」(JR 新長田駅南側)を活動拠点としています。それぞれの地域特性を活かしながら、企業の皆様との対話、共同研究、人材育成、スタートアップ支援など、多面的な産学連携活動を展開しています。

また、2024年から「はりま新産業創出エコシステム」を地域企業、自治体、金融機関、支援機関などと連携し、推進しています。本取り組みでは、大学の知を核として、次世代産業の創出、イノベーション人材の育成、地域産業の高度化を推進し、播磨地域から新たな価値を発信することを目指して活動しています。

社会環境が大きく変化する中、単独の組織だけで未来を切り拓くことは容易ではありません。だからこそ、大学と企業が互いの強みを持ち寄り、共に挑戦する「共創」がますます重要になっています。

社会価値創造機構は、産業界の皆様にとって最も身近で信頼される連携パートナーを目指してまいります。本学との連携を通じ、新たな価値創造に向けて共に歩んでいただければ幸いです。

ぜひ社会価値創造機構のホームページもご覧ください。今後も社会価値の実装を担う機構として活動の充実に努めてまいりますので、引き続きご支援、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

社会価値創造機構について

1 名 称 兵庫県公立大学法人 兵庫県立大学 社会価値創造機構

2 設置時期 平成23年4月1日

3 設置場所 姫路市南駅前町123番地 じばさんびる 3階

4 設置の経緯

- (1) 平成23年4月、大学本部の神戸学園都市キャンパス（現神戸商科キャンパス）移転に際し、産学連携センター（神戸市中央区）と姫路産学連携センター（書写キャンパス〔現姫路工学キャンパス〕）の産学連携コーディネーター機能を1か所に集約して機能を強化するため、姫路産学連携センターを交通至便な姫路駅前に移転させ、名称を「産学連携機構」に改めた。
- (2) 平成24年10月、神戸・阪神地域の企業がアクセスしやすいよう、県立工業技術センター（神戸市須磨区）内に「神戸ブランチ」を開設した。また同年11月に、ポストドクター・キャリア開発事業を円滑に実施するため、機構内に「産学連携キャリアセンター」を設置した。
- (3) 平成25年4月、ニュースバル及び兵庫県保有のSPRING-8放射光ビームラインの産業利用を促進するため、機構内に「放射光産業利用支援本部」を設置した。同年12月には、水素エネルギー普及に向け、学内横断的な研究を推進するため、機構内に「次世代水素触媒共同研究センター」を設置した。
- (4) 平成26年4月、スーパーコンピュータ「京」をはじめとする国内の大学・研究機関と連携して、ハイパフォーマンス・コンピューティングの分野で、人材育成や研究成果の社会還元を推進するため、神戸情報科学キャンパス内に「計算科学連携センター」を設置した。また、研究推進機能の強化を図るため、「産学連携機構」を「産学連携・研究推進機構」に改称した。
- (5) 平成31年4月、金属新素材に係る研究開発、中小企業支援を行うため、姫路工学キャンパス内に「金属新素材研究センター」を設置するとともに、人工知能（AI）等に関する、中小企業への導入支援、普及啓発、共同研究等を行うため、「人工知能研究教育センター」を設置した。また、水素エネルギーのより広範な研究に取り組むため、次世代水素触媒共同研究センターを「水素エネルギー共同研究センター」に改称した。
- (6) 令和3年4月、「先端医工学研究センター（AMEC）」を工学研究科より移管し、計算科学研究センターを「データ計算科学研究センター」に改称した。
- (7) 令和4年4月、先端医療工学研究所設立に伴い、医産学連携推進本部を医産学連携ブランチに移行した。
- (8) 令和6年4月、「産学連携・研究推進機構」と「地域創造機構」を統合し、「社会価値創造機構」を開設した。統合に伴い「産学連携推進本部」を「本部」に改称し、本部内に「研究戦略室」及び「新ビジネス育成センター」を新設したほか、「知的財産本部」を「知的財産マネジメント室」に改称し、本部の中に組み入れた。また、機構内に地域連携活動支援を担う「地域創造センター」を設置した。
- (9) 令和7年1月、新長田キャンパスプラザ5階に機構の神戸拠点として「新長田ブランチ」を開設した。
- (10) 令和7年4月、戦略的な包括連携協定の締結及び活用の推進を図るため、機構内に「包括連携推進室」を設置した。

5 機構の特色

(1) サポート機能の充実

機構内に企業等の技術・経営支援に加え、起業支援・人材育成、金融機関連携を担う新ビジネス育成センターを設置し、サポート機能の充実を図る。

(2) コーディネート機能の強化

専任コーディネーターが学外の産学連携支援機関と連携して、情報収集や共同研究のマッチングの充実を図る。

(3) 産学連携協定に基づく地域産業の活性化支援

兵庫工業会をはじめとする、地域や経済団体等との連携協定に基づき、地域産業の活性化に取り組んでいる（当機構連携協定20件、全学連携協定24件（令和8年5月1日現在））。

(4) 競争的資金の獲得支援

リサーチ・アドミニストレーターや専任コーディネーターによる支援体制のもと、競争的資金の獲得に向けて取り組んでいる。

(5) 大学発ベンチャー支援

大学発ベンチャー創出及び運営・経営を支援する。

(6) 知的財産

知的財産マネジメント室コーディネーターを核にNIRO等外部機関との連携を緊密に行い、戦略的な知的財産の創出、保護、管理及び活用を行う。

(7) 学生・企業の教育・人材育成支援

学生に対する企業見学会の開催等による教育支援のほか、企業の技術開発等の人材育成を支援する。

(8) 産業界への博士人材の供給支援

博士人材のキャリアパス支援を通じて、産業界へ高度な専門知識をもつ博士人材を供給する。

(9) 広報戦略の強化

わかりやすい「研究者マップ」や「産学連携研究シーズ集」を作成し、産学連携活動に活用する。

ご挨拶

社会価値創造機構 副機構長
工学研究科工学専攻（化学分野） 教授 武尾 正 弘



令和6年に発足した当機構も2年が経過し、大学での研究開発や民間を含む外部機関との共同研究の促進、それを通じた外部資金の獲得、新長田ランチ・地域創造センターを中心にした地域連携、知財や経済安全保障問題への対応などに精力的に取り組み、苦しみながらも本報告の通り一定の成果をあげてまいりました。大学教員・職員や機構職員の頑張りはもちろんですが、これもひとえに産業界や金融界、地域自治体や商工会議所など、地域の皆様のお力添えがあって何とか得られた成果と認識しております。ここで改めて皆様に感謝を申し上げます。

一方、我々を取り巻く経済環境はたいへん厳しく、ホルムズ海峡の封鎖により日本経済は深刻な影響を受けつつあり、また、兵庫県も金利上昇などのあお

りを受け、令和8年度から起債許可団体へ移行する見込みとなっており、大学の研究費も厳しい状況が続きます。このような状況を一気に解決することはできませんが、当学の得意とする半導体製造と深く関わる放射光技術や水素エネルギー・太陽電池を中心とした新エネルギー・新素材の開発、AIや先端医学関連研究などを押し進めながら、引き続き大型予算獲得への努力を継続いたします。また、このような厳しい時期にこそ、学内研究者の新たな連携や地元企業との交流を通じたシーズ育成を進めてまいりますので、皆様におかれましては、引き続きご理解とご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成25～令和7年度 兵庫県立大学社会価値創造機構コーディネーター活動報告（種別）

（件）

種 別	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合 計
1 技術相談	249	229	262	288	285	239	298	328	255	256	374	184	160	3,407
	13	13	11	11	14	17	11	4	1	3	26	0	0	124
2 研究推進 支援業務	816	832	878	872	884	902	892	1,136	1,046	1,060	1,097	906	1,018	12,339
	457	491	501	518	535	588	488	551	607	554	498	293	342	6,423
3 PR業務	188	198	215	208	209	238	368	387	220	504	264	288	316	3,603
	3	2	2	2	3	3	1	2	1	3	3	0	0	25
4 連携業務	341	378	330	337	359	314	384	350	355	348	595	684	840	5,615
	20	32	28	21	23	27	31	10	20	97	67	170	199	745
5 その他	240	241	267	295	304	371	491	391	507	332	295	264	374	4,372
	37	39	43	42	47	54	64	46	120	8	9	4	5	518
合 計	1,834	1,878	1,952	2,000	2,041	2,064	2,433	2,592	2,383	2,500	2,625	2,326	2,708	29,336
	530	577	585	594	622	689	595	613	749	665	603	467	546	7,835

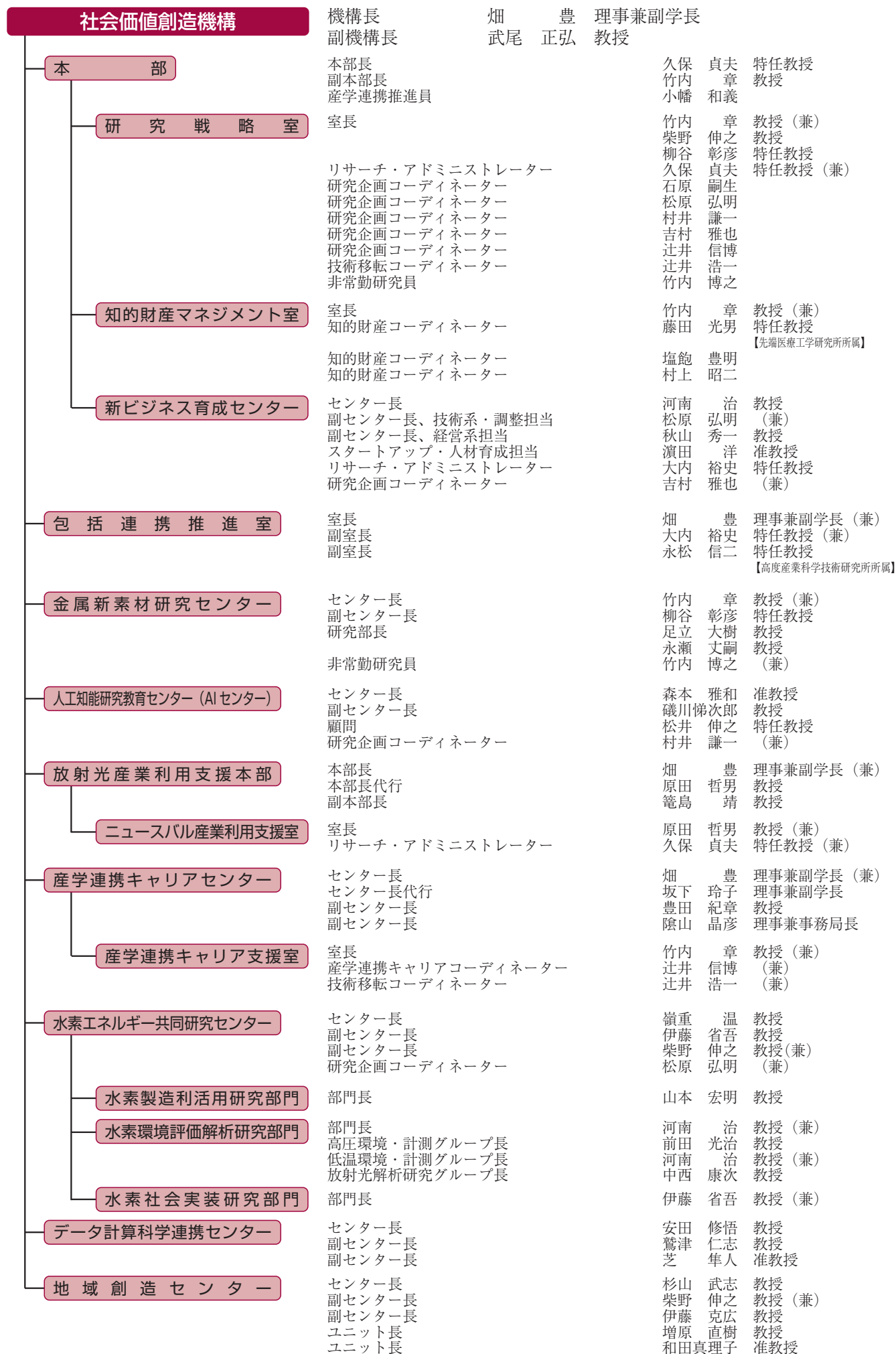
※ 社会価値創造機構会議（定例会議含む）に提出される各コーディネーターからの活動状況報告等を集計したもの。

※ 以下の活動内容により、分類している。

- 1 技術相談（企業等からの技術相談、追跡調査）
- 2 研究推進支援業務（共同研究・受託研究の推進、各種競争的資金獲得支援等）
- 3 PR業務（イベントへのブース出展、機構主催行事の企画等）
- 4 連携業務（他機関との連携による活動等）
- 5 その他（関係機関等の主催による産学連携関係イベント、セミナー、シンポジウム、会議等への参加等）

※ 下段の数字は知的財産担当CDの数字である。共同研究契約のチェック、知的財産（特許）の申請審査、特許事務所への対応が主要な業務となっている。

社会価値創造機構 組織図 (令和8年5月1日現在)



「包括連携推進室」の取組みについて

2025年4月に「包括連携推進室」を立ち上げ、本学の強みを活かした産官学連携活動を開始いたしました。

1. 目的・ねらい

「ビジョン2036」に掲げる「社会から信頼され評価される大学」の実現を目指す本学の取組みにご賛同頂ける包括連携企業と一体となり、「社会の求める学術研究の社会実装」と「企業の求める人材育成・教育を図り人材輩出」を目指して、本学が強みを持つ放射光（ニュースバル、理化学研究所・RSC 連携（※1）、情報科学（理化学研究所・R-CCS 連携（※2）、看護（ヘルスケア）等の先端領域において、企業と本学の両者が「Win-Win」となる活動へと高めます。

同時に国・県からの助成金獲得に加えて、本活動にご賛同を頂ける企業群からの外部資金獲得を図ります。

2. 組織

包括連携推進室 室長 : 畑 豊 理事兼副学長 事務局 : 西島 健治 副局長
副室長 : 永松 信二 特任教授 副室長 : 大内 裕史 特任教授

3. 2025年度の活動と成果

(1) 包括連携協定：包括連携企業は全4社（26年3月末時点）であり、このうち、株式会社ジェイテックコーポレーションおよび福島国際研究教育機構（F-REI）（※3）の2者と、2025年度に包括連携協定を締結しました。

(2) 外部資金 : 総計240百万円獲得

(3) 活動成果 : 活動内容を図1に示します

「AI for Science 人材育成」 : 情報科学研究科と共に理研・R-CCS と AI-HPC 人材育成に向けて連携構築、国際会議「SCA/HPCAsia2026」（26年1月26日～29日）へ出展

「BEUV 用半導体材料研究」 : 二光束干渉露光装置（透過型および反射型）を用いた「ピッチ20nm」の評価系を開発中。

現時点における最先端のメタルピッチは約21nm（2nm世代プロセス相当）。

「レジリエンスなまちづくり」：防災看護の領域でDXを活用したヘルスケアへ取り組むことをF-REIと検討中

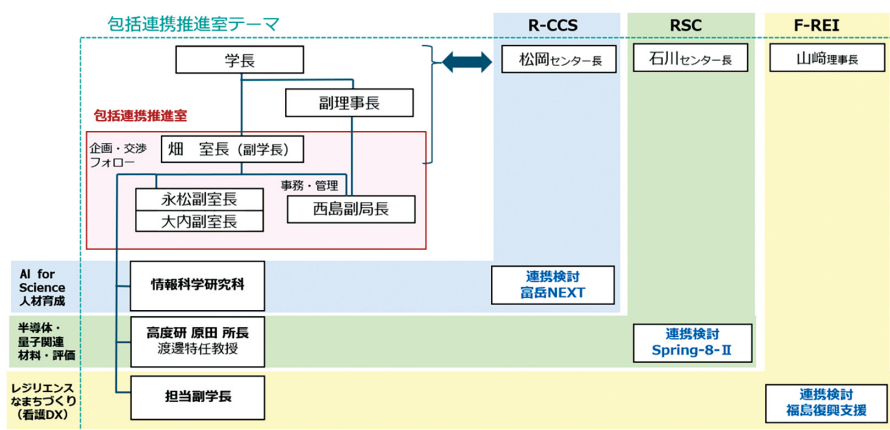


図1 2025年度の活動

4. 今後の展開

(1) 本活動の加速 : 企業経営者との連携を強化し、包括連携企業のさらなる拡大を図ります。

(2) 重点取組み :

・世界トップレベルの先端半導体材料（放射光利用）教育拠点の構築 ・実践型 AI ビジネス人材育成の具現化

（※1）RSC : 理化学研究所・放射光科学研究センター RIKEN SPring-8 Center 略称

（※2）R-CCS : 理化学研究所・計算科学研究センター RIKEN Center for Computational Science 略称

（※3）F-REI : 福島国際研究教育機構 Fukushima Institute for Research, Education and Innovation 略称

（※4）BEUV : Beyond Extreme Ultra violet 略称

兵庫県立大学タイサテライトオフィス

グローバル教育・国際共同研究を推進するため、プリンス・オブ・ソンクララー大学内に兵庫県立大学タイサテライトオフィスを2025年11月に開設しました。タイをはじめとする東南アジア諸国の大学等の教育機関・日系企業等との交流促進を図るとともに、県内企業による海外人材確保促進支援、海外インターンシップによる学生の国際経験機会の提供、交換留学による人的交流の促進等に取り組んでいきます。

概要

所在地：プリンス・オブ・ソンクララー大学（PSU）

プーケットキャンパス内

運営：UH タイ日サポートセンター（現地企業へ委託）

体制：委託先からスタッフ派遣・定期的に駐在
（それ以外の日は連絡体制確立）

主な業務：

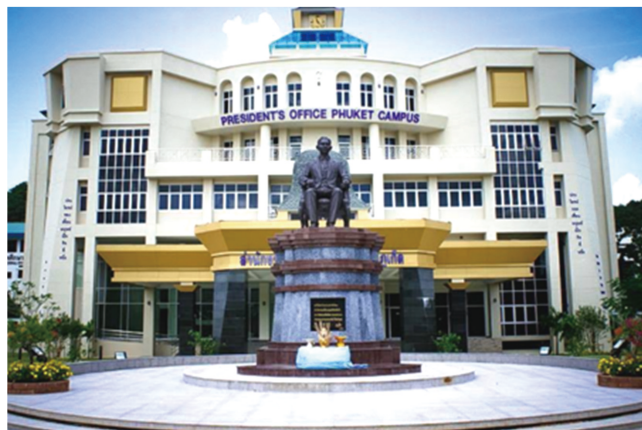
- ・タイ国内の大学との交換留学、学术交流の推進
- ・タイに進出した日系企業との産学連携の推進
- ・東南アジア地域内の大学との MOU 締結等学术交流
- ・GBC 留学生確保のための説明会開催等学术交流の
拡充に向けた調整 等

開設式典：

2025年11月21日（金）

（出席者）

高坂誠学長、加納郁也副学長、豊田紀章教授、PSU 学長、
タマサート大学関係者、在タイ日系企業関係者 等



参考

1 本学の学术交流協定締結校

21カ国 50大学

うち東南アジア地域内の学术交流協定締結校

5カ国 11大学

うちタイ国内 7大学

2 プリンス・オブ・ソンクララー大学（PSU）

タイ南部で最初の大学として1967年に、地域の教育水準の向上と、地域の産業発展の支援を目的として設立。現在は、5キャンパスに35学部・カレッジ、及び研究科、研究所等を設置（学生数約36,000人 教員数約2,500人）。同大学とは2024年6月に学术交流協定締結。

科学技術振興機構（JST）の大学発新産業創出基金事業

スタートアップ・エコシステム共創プログラム（KSAC-GAP ファンド）2025年度採択課題

令和2年7月、「世界に伍するスタートアップ・エコシステム拠点形成戦略」（内閣府公募事業）に、神戸商工会議所、兵庫県、神戸市、大学、民間組織等で構成する「ひょうご神戸スタートアップ・エコシステムコンソーシアム」が、大阪、京都のコンソーシアムとともに、「グローバル拠点都市」として選定され、令和7年度も継続して活動を行っています。

拠点都市においては、大学発の新産業創出を活性化していくため、大学などが実施するアントレプレナー人材の育成、事業化に向けた研究開発に対して、国からの資金支援が行われることになっており、関西地区においては、関西の25大学が参画する「関西スタートアップアカデミア・コアリション（KSAC）」（主幹機関:京都大学）が、スタートアップ・エコシステム共創プログラムに採択され、スタートアップ創出プログラム（KSAC-GAP ファンド）が設けられています。

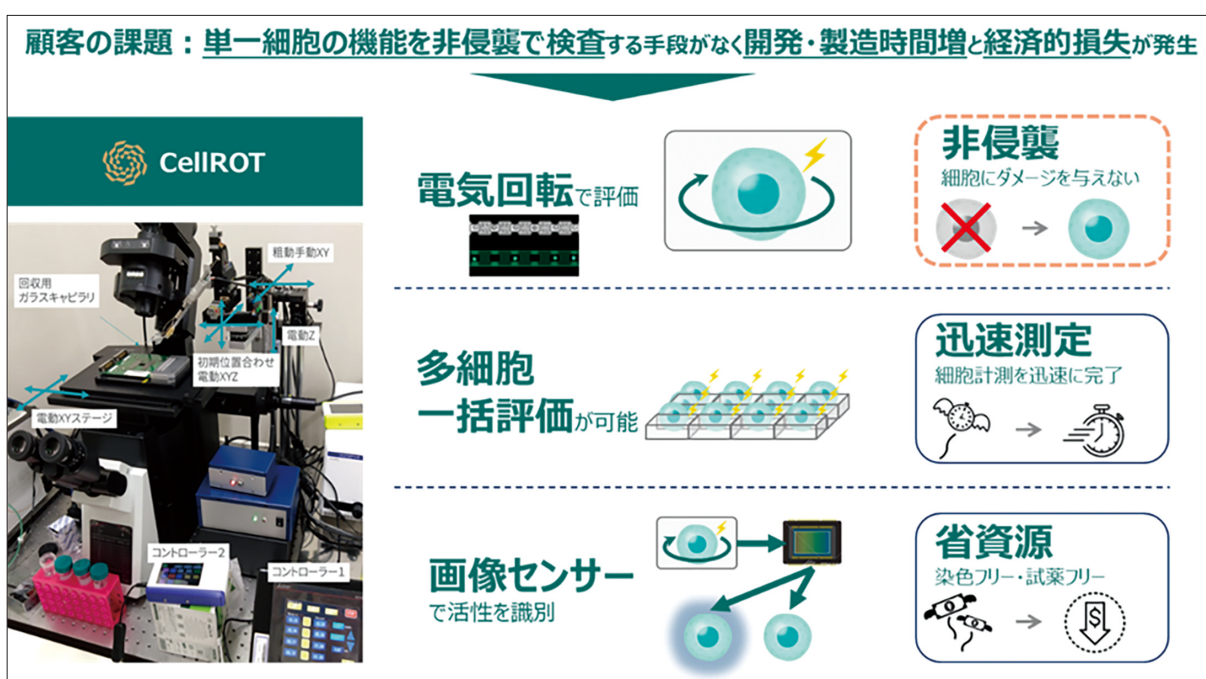
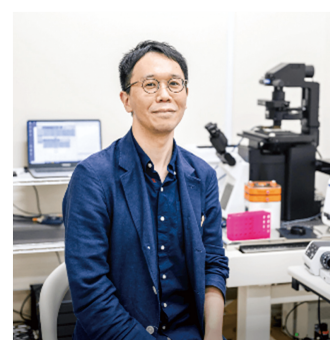
このプログラムを活用して、教員、大学院生が取り組む事業化に向けた研究開発への助成が行われており、R7年度は本学から下記の研究開発課題が採択されました。

●研究開発課題：

電気回転計測による非侵襲・迅速な単一細胞選別プラットフォーム「CellIROT」の事業化実証

●研究代表者：理学研究科 准教授 鈴木 雅登

●研究概要：本研究は、電気回転計測を核とする単一細胞選別プラットフォーム「CellIROT」を事業化に結び付ける。まず、抗体産生能をもつ細胞の染色フリーな識別・分離技術を確認し、抗体取得確率の向上と期間短縮を実証する。本成果を基に、想定顧客や共同パートナーとの共同開発契約獲得へ展開する。さらに、小型・低価格な顕微鏡フリーな細胞評価装置を開発し、移植治療用 T 細胞の質の評価へ適用を広げる。本プラットフォームを、再生医療に利用される iPS 細胞の品質管理、細胞由来生産、培養食品の生産管理など、医薬品から産業分野まで細胞を用いたモノづくりに普遍的に活用できる基盤装置へと昇華させる。



CellIROT が提供する価値

放射光産業利用支援本部は、軟 X 線を発する中型放射光施設ニュースバル (NewSUBARU) を有している高度産業科学技術研究所と、硬 X 線を発する SPring-8 の敷地内に設置された兵庫県放射光研究センターとの緊密な連携の下、両施設の相互利用を含めた放射光の産業利用を支援している。

産業利用を推進するためには、放射光を利活用できる人材の育成・確保が必須であり、このために当本部では、① NewSUBARU での実習を通じて、基本的な放射光計測・分析ができる人材の裾野を広げる、② データ駆動型材料開発 (マテリアルズ・インフォマティクス) 等、情報科学技術を製品開発に活用できる高度な人材を育成する、の二つの切り口で取り組んでいる。①については、高度産業科学技術研究所が中心となり、放射光計測・分析に関する講義と実習を開催 (主催: 姫路市、高度産業科学技術研究所、社会価値創造機構)。受講後に実習担当者との個別相談の機会を設ける等、放射光ユーザとして次の具体的な一歩を踏み出せる支援をしている。また②については、情報科学分野の新たな潮流であるデータ駆動科学に関する基礎と実践、およびマテリアルズ・インフォマティクスに関する最新の研究事例に関する講座・講演会を開催した (主催: (公財) ひょうご科学技術協会、社会価値創造機構)。

次年度以降についても、兵庫県、姫路市、放射光研究センター (令和 7 年にセンター内に設置した光科学応用テクニカルアドバイザー等) との連携体制を一層強化することで、放射光の産業利用を推進していく。

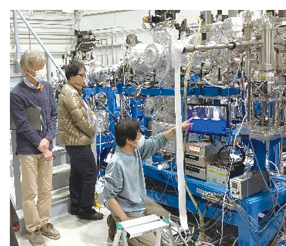
令和 7 年度の主な活動内容と成果を以下に記す。

1. ものづくりのための放射光分析実習

開催日時: 令和 7 年 12 月 12 日 [参加者] 13 名

講師: 高度産業科学技術研究所 原田哲男教授、中西康次教授、大河内拓雄教授

内容: 放射光分析基礎講義、X 線吸収分光実習、解析実習



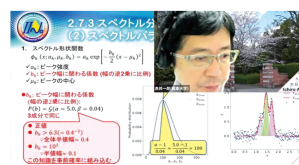
放射光分析実習の様子

2. データ駆動科学 基礎と Python による実践 (オンライン: 90 分 × 12 講座)

開催日時: 令和 7 年 9 月 5 日、10 月 3、10、17、24、31 日

参加者: 延べ 229 名、一般企業: 32 社 43 名、大学研究機関: 12 機関 25 名

講師: 熊本大学 産業ナノマテリアル研究所 赤井一郎教授



データ駆動科学講座の様子

3. 兵庫県マテリアルズ・インフォマティクス講演会 (オンライン)

第 14 回: 画像処理と AI の活用最前線

講師: 筑波大学 五十嵐康彦准教授、東北大学 高山裕貴准教授

日本ゼオン株式会社 世木隆 Gr 長

開催日: 令和 7 年 8 月 25 日、参加者: 150 名

第 15 回: 量子コンピュータと計測インフォマティクスの最前線

講師: 株式会社理研数理 松崎健一取締役、理化学研究所 後藤隼人チーフディレクター

大阪大学 水上渉教授、奈良先端科学大学 富谷茂隆教授

開催日: 令和 8 年 3 月 11 日、参加者: 100 名



講演会の様子

○ 令和 8 年度の計画

・ 2026 年度「ものづくりのための放射光分析実習」(令和 8 年 7 月開催)

【放射光 (ニュースバル、SPring-8) 相互利用、スパコン産業利用、各種連続講座の問合せ先】

○ 特任教授兼リサーチ・アドミニストレーター

氏名: 久保 貞夫 (くぼ さだお)

E-mail: kubo_sadao@hq.u-hyogo.ac.jp

T E L : 079-283-4560、FAX : 079-283-4561



兵庫県立大学は、2013年12月設立の「次世代水素触媒共同研究センター」を改組改称し、「水素エネルギー共同研究センター」を設置（2019年4月）した。

次世代水素エネルギー利用の社会を構築するには、革新的な高効率水素生成や燃料電池、水素貯蔵材料の開発、さらにエネルギーキャリアの利活用、エネルギーシステム変換効率向上が必要である。

本センターは、兵庫県立大学のもつ研究成果と技術開発力を学内研究科の垣根を越えて結集するとともに、広く国内外の大学、国立研究機関や企業などと密に連携をとりながら幅広い分野で共同研究を推進し、水素エネルギー社会実現への貢献を目指す。



センター長
嶺重 温 教授

組織

センター長	嶺重 温（工学研究科 教授）
副センター長	伊藤 省吾（工学研究科 教授）、柴野 伸之（社会価値創造機構 教授）
水素製造利活用研究部門	部 門 長：山本 宏明（工学研究科 教授）
水素環境評価解析研究部門	部 門 長：河南 治（工学研究科 教授）
高圧環境・計測グループ	グループ長：前田 光治（工学研究科 教授）
低温環境・計測グループ	グループ長：河南 治（工学研究科 教授）
放射光解析研究グループ	グループ長：中西 康次（高度産業科学技術研究所 教授）
水素社会実装研究部門	部 門 長：伊藤 省吾（工学研究科 教授）

研究テーマ概要

本学発の研究テーマや本学の得意領域を中心に活動、他大学・研究機関・企業との共同研究により、その活動の加速と高度化を図る。また、産官学連携による社会貢献への道筋を明確にする。

- ・水素発生（水電解・光触媒・バイオ由来）に関する研究開発
- ・水素の貯蔵・運搬に必要な材料設計・評価解析技術に関する研究開発
- ・水素の利用（燃料電池・CO₂資源化）に関する研究開発
- ・再生可能エネルギーと「広い意味での水素」によるエネルギー構造の構築

令和7年度 主な活動内容

<トピックス>

1. 「ひょうご水素利活用サロン」活動を実施。入会企業メンバーは36社（2026年5月現在）
2. 三菱重工業高砂水素パーク／作る・運ぶ・貯蔵する・使うの一貫システム実証設備の見学（10/ 3）
3. 神戸水素クラスター連携イベントの開催（姫路工学キャンパス、8 /27）
4. 外部連携：鉄鋼材料の水素脆化抑制と導入水素解析、海水電解の技術確立を目指した共同研究を実施

<主要行事>

1. センター会議・講演会、ひょうご水素利活用サロン例会開催（3回）
 - ・ 7/23：兵庫県水大気課岡智郁班長 『燃料電池車重点地域選定を受けてのアクションプラン』
株式会社 OKAMURA 村田博明氏 『兵庫県立大学との取組のご紹介』
 - ・ 10/22：神戸大学大学院工学研究科 宮崎晃平教授
『アルカリ水電解に向けた貴金属フリー酸素発生電極触媒の展開』
 - ・ 1/28：兵庫県立大学工学研究科 野崎安衣准教授
『合金からの MOF s 修飾触媒の開発』
2. シンポジウム（ひょうご水素利活用サロン共同開催）（3 /16）
 - ・ 基調講演：東京大学大学院工学系研究科 高鍋和弘教授
『アカデミア発：基礎研究から拓く水電解技術の将来』
 - ・ ひょうご水素利活用サロン講演：
ボルカノ株式会社開発本部研究開発部グリーン戦略室 長谷川宏樹理事
『船用次世代燃料焚き（水素&アンモニア）機器開発の取組み』



シンポジウム2026

今後の展開

エネルギーの多様化を図り、安定的で効率的なエネルギー需給を実現するための新たな選択肢の水素であるが、水素を日常の生活や産業活動で利活用する「水素エネルギー社会」の実現には、未だ多くの課題が存在しており、国のみならず自治体レベルでの幅広い取組も必要である。自治体や「ひょうご水素利活用サロン」も活用し、水素社会の実現に向けた機運醸成を図り、産官学連携取組のさらなる加速化を図り、兵庫県立大学としてめざすべき水素エネルギー社会の姿とそれに向けた今後の取組を行う。

<重点取り組み>

1. 本学の得意とする材料開発、評価解析技術、計算科学等を融合した水素社会実現のための新技術の提案
2. 再エネ（太陽光、バイオ資源）と広い意味での水素を用いる社会実現に向けた産官学の取り組みの実施

水素エネルギー共同研究センター WEB ページ：<https://uh-sangaku.jp/hydrogen-energy/>

2014年4月、兵庫県立大学神戸情報科学キャンパスに、全学センターとして「計算科学連携センター」が設置され、2021年度よりデータサイエンスの分野も含めた「データ計算科学連携センター」へと発展しました。本センターはハイパフォーマンス・コンピューティングや計算科学、計算機科学、データサイエンスの分野での学内連携、他の大学、研究機関、企業等との教育交流や人材育成、研究交流の推進、同キャンパスに設置されているスーパーコンピュータの利用促進ならびに管理運用を目的として、本学の社会価値創造機構の組織として情報科学研究科に設置されています。

隣接する理化学研究所計算科学研究センター（RIKEN R-CCS）においても、スーパーコンピュータ「京」から「富岳」に移行し、従来の計算科学にとどまらず、人工知能や社会シミュレーション、ビッグデータ解析、データサイエンスなど多くの分野において、スーパーコンピュータの利活用がますます盛んになっています。本センターではこれまで、学生や若手研究者向けのスクール（神戸大学計算科学教育センターおよび RIKEN R-CCS と共催）や、計算科学振興財団（FOCUS）をはじめとする国内外の大学、研究機関、民間企業などと連携し、広い分野での研究交流も実施しています。

ホームページ

<https://u-hyogo-gsis.org/joint-research/>

- センターの活動内容、成果報告書、共同研究の実績などがご覧いただけます



センター長
安田 修悟 教授



副センター長
鷲津 仁志 教授



副センター長
芝 隼人 准教授

スーパーコンピュータのシステム全体

(兵庫県立大学神戸情報科学キャンパス)

ログインノード

計算ノード①②

①CPUノード (Thin) HPE Apollo 2000 Gen10

56 nodes

(1 node あたりの構成)

CPU: Intel Xeon Gold 6248 2.5GHz (20 cores)x 2(Total 40 cores)
Mem: 192GB

【用途】分散メモリ並列計算

②CPUノード (Fat) HPE Apollo 2000 Gen10

8 nodes

(1 node あたりの構成)

CPU: Intel Xeon Gold 6248 2.5GHz (20 cores)x 2(Total 40 cores)
Mem: 768GB

【用途】分散メモリ並列計算(大容量メモリ利用)



計算ノード③

③GPUノード HPE Apollo 6500 Gen10

1 node

(構成)

CPU: Intel Xeon Gold 6248 2.5GHz
(20 cores) x 2
(Total 40 cores)
Mem: 768GB
GPU: NVIDIA V100 32GB SXM2
: 8枚



【用途】GPGPU計算、分散メモリ並列計算

計算ノード④

④VE搭載計算ノード HPE Apollo 6500 Gen10

2 nodes

(1 node あたりの構成)

CPU: Intel Xeon Gold 6248 2.5GHz
(20 cores)x 2
(Total 40 cores)
Mem: 768GB
GPU: NEC Vector Engine Accelerator
Module: 8枚



【用途】ベクトル演算、分散メモリ並列計算

計算ノード⑤

⑤共有メモリノード HPE ProLiant DL560 Gen10

1 node

(構成)

CPU: Intel Xeon Gold 6248 2.5GHz
(20 cores) x 4
(Total 80 cores)
Mem: 3TB



【用途】大規模並列計算、出力データ解析など

データ・学習統合オペレーションシステム (2025年2月新設)

Kubernetes クラスタ基盤, CPU Worker (AMD EPYC 9454 48Core x2), GPU Worker (Nvidia Ada L4 24GB x4)

兵庫県立大学は、エッジからクラウドまでの幅広いコンピューティング分野での人工知能（AI）の基礎と応用に関する教育・研究を行い、様々な産業領域に対応できる技術シーズを有しています。これらを積極的に活用して AI 社会に対応した人材育成、社会貢献、次世代情報産業創出を担うべく、平成31年4月から当センターを設置しています。



センター長
森本 雅和 准教授

組織

森本 雅和 准教授（センター長）
磯川 悌次郎 教授（副センター長）
上浦 尚武 教授
日浦 慎作 教授
相河 聡 教授
和田 孝之 教授
新居 学 准教授
山添 大丈 准教授
奥田 萌莉 助教
橋本 尚典 助教

松井	伸之	特任教授（顧問）
小橋	昌司	教授
川嶋	宏彰	教授
笹嶋	宗彦	教授
長宗	高樹	教授
大島	裕明	准教授
湯本	高行	准教授
山本	岳洋	准教授
田中	健太	助教

研究テーマ

- (1) 画像認識技術：外観検査、画像診断支援、作業分析、行動予測等への AI 技術の活用
- (2) 自然言語処理：自動翻訳、要約や情報抽出・検索等に不可欠な自然言語処理
- (3) 自動運転：高レベルの自動運転に不可欠な行動予測や危険察知の性能向上
- (4) 量子情報科学技術と AI の融合：量子コンピュータ・コンピューティング活用、融合 AI 技術の開発
- (5) 観光用ビッグデータの活用調査：魅力あるホットスポット発見やルート推奨による、兵庫県観光の活性化

兵庫県立大学 AI入門セミナー

生成AIを用いた業務の効率化

参加費無料

令和 8 年 1 月 19 日(月)

13:30 ~ 16:55

80名 (先着順)

受講申込締め切り1月15日



スケジュール

13:30 ~ 開会挨拶

13:35 ~ 講演 1

14:35 ~ 講演 2

----- (休憩 (15分)) -----

15:50 ~ 講演 3

16:50 ~ 閉会挨拶

登壇 兵庫県立大学 理事兼副学長 社会価値創造機構長
Serenditeと生成AIで拓く三賢電機社の次世代イノベーション
講師 横山 三賢電機株式会社 サブタライイノベーション事業本部
AI戦略プロジェクトグループ 基盤設備課 次長

生成AIを活用した知識基盤の革新
熊巴 創矢 オムロン株式会社 技術・知財本部 知財専門員

ローカル生成AI活用のすすめ
森本 雅和 兵庫県立大学 人工知能研究教育センター長

試観 正弘 兵庫県立大学 社会価値創造機構 副機構長

開催場所

兵庫県立大学
 新舞島プラザ セミナー室
 新舞島地区センター町1102-1
 (新舞島センタープラザ内)

<https://twitter.com/ncuofficial>





主催 公益財団法人新舞島創造機構・兵庫県立大学 人工知能研究教育センター

令和7年度 主な活動内容

A. セミナー（3件）

- (1) AI 入門セミナー「生成 AI を用いた業務の効率化」
(2026/1/19 @兵庫県立大学 新長田ランチ)
- (2) ビッグデータ、IoT 時代のための AI 入門講座
第 1 回 (2025/10/25, 26 @兵庫県立大学 新長田ランチ)
第 2 回 (2026/1/31, 2/1 @兵庫県立大学 新長田ランチ)
- (3) 生成 AI を活用した AI プログラミング
(2026/2/9 @じばさんびる)

B. 出展 (2件)

- (1) 「今すぐ使える!! IoT・AI・ロボット展」(2025/6/6@神戸サンボーホール)
- (2) 「国際フロンティア産業メッセ2025」(2025/9/4,5@神戸国際展示場)

C. 共同研究（7件）、学術相談（2件）

D. オーダーメイド研修（3件）、ミニセミナー（2件）



今後の展開 当センターの研究の充実、兵庫県産業の活性化のために、以下を令和8年度の重点取組とします。

- ①全学の AI 関係教員の連携を強化：教員（研究者）の連携を密にし、本学における優れた AI 教育プログラムを模索
②共同研究の推進：研究テーマ概要に掲げた分野における共同研究活動の推進により、兵庫県産業の生産性を向上
③幅広い AI 社会実装の推進：農業、防災、交通・物流等の分野における AI システムの社会実装への積極的取り組み

兵庫県立大学は、2019年4月、内閣府と兵庫県による地方創生事業の支援を受け、姫路工学キャンパス内に「金属新素材研究センター」を設置しました。兵庫県立工業技術センターの姫路サテライトとして設置され、兵庫県立大学が運営する本センターは、地元企業支援を第一の目的として活動しています。本センターの特徴として、金属3D積層造形技術に注目し、金属3Dプリンタ（電子ビーム型とレーザービーム型）、金属溶解装置、ガスアトマイズ装置、電子線マイクロアナライザ等の金属新素材開発に必要な一連の装置を配備しています。さらに、本センターを拠点とした「ひょうごメタルベルトコンソーシアム」を組織し、地域の技術力向上や技術普及を推進しています。



センター長
竹内 章 教授

組織

センター長	竹内 章	(社会価値創造機構教授) / コンソーシアム委員長 (副委員長：令和8年5月20日～)
副センター長	柳谷 彰彦	(社会価値創造機構特任教授) / コンソーシアム副委員長 (委員長：令和8年5月20日～)
研究部長 (分析担当)	足立 大樹 永瀬 丈嗣	(工学研究科教授) / コンソーシアム副委員長 (工学研究科教授)

令和7年度 主な活動とトピックス (金属新素材研究センター)

○ 研究

- ・電子ビーム型3Dプリンタによる造形研究 (Al 合金) [共同研究]
- ・レーザービーム型3Dプリンタによる造形研究 (高融点金属、新規粉末材料) [共同研究]
- ・ガスアトマイズ装置によるバイオマス用粉末研究 [Go-Tech 共同研究]
- 学術相談・企業・大学等との共同研究：11件 (装置、材料、加工分野)

○ P R

- ・展示会出展：4件 (国際フロンティア産業メッセ2025)
- ・見学会：1件 (兵庫県立姫路東高校)
- ・出張講演会：2件 (近畿高エネルギー加工技術研究所 (AMPI)、CMCリサーチウェビナー 【ライブ配信】)

○ 装置導入

- ・プラズマ溶融装置

○ 褒章 令和7年度兵庫県科学賞 柳谷彰彦特任教授 授賞式：11月3日



令和7年度兵庫県科学賞授賞式



兵庫県科学賞 記念撮影

令和7年度 主な活動 (ひょうごメタルベルトコンソーシアム)

<主要行事>

- 運営委員会：5月14日 WEB
- 総会：5月26日 WEB
- シーズ発表会 (講演・展示・施設見学)：8月6日対面+オンライン配信@じばさんびる (姫路)
- 技術セミナー (講演・展示)：9月9日ハイブリッド@神戸、2月18日ハイブリッド@姫路
- 経営セミナー：10月8日 WEB
- 講習会 (実習)
 - ・レーザービーム型金属3Dプリンタ造形講習会：8月28日-29日、1月20日-21日
 - ・ソフト計測ポロジ最適化講習会：7月18日 (第1回入門講座、第2回実践講座)

○展示会

- ・Formnext ASIA Tokyo Forum 2025
@東京都立産業貿易センター：9月25日-26日
-コンソーシアム合同出展 (5企業2団体)
神戸工業試験場、金属技研、エスケーファイン、ニイミ産業、大亜真空
兵庫県立工業技術センター、金属新素材研究センター

- ・TCT Japan 2026@東京ビッグサイト：1月28日-30日
-コンソーシアム合同出展 (6企業2団体)
ニイミ産業、新報国マテリアル、日新技研、大亜真空、デンコーテクノヒート、ハニー化成、兵庫県立工業技術センター、金属新素材研究センター



シーズ発表会



技術セミナー姫路



TCT Japan @東京



レーザービーム3Dプリンタ
講習会2



トポロジー最適化講習会
第2回実践講座

今後の展開

研究センター独自研究の充実を図り、本学を起点とした全国の産学連携ネットワークを活用し新たな金属材料・新たな技術の普及に貢献するための取り組みを行います。

<重点取り組み>

1. 研究センター独自研究の充実：新材料の粉末化研究と新規材料の造形条件確立と特殊形状造形ノウハウの蓄積
2. 共同研究の推進：保有技術と装置の特徴を活かし、企業との共同研究を推進
3. 競争的資金の獲得：研究センターの技術や装置の拡充、コンソーシアム活動の充実を目指す



センター長
杉山 武志 教授

兵庫県立大学は、令和6年4月、社会価値創造機構内に、全学の地域連携を推進する組織として「地域創造センター」を設置しました。自治体との連携にかかる情報収集や相談・マッチング、自治体との包括連携協定の締結・推進のほか、地域創造人材の育成を図っています。

当センターでは、地域連携コーディネーターを配置し、地域連携活動に関する情報収集と発信、持続的な連携活動のためのサポートを行っています。

組織

センター長	杉山 武志 教授	ユニット長	増原 直樹 教授
副センター長	柴野 伸之 教授	ユニット長	和田真理子 准教授
副センター長	伊藤 克広 教授		

令和7年度 主な活動内容

1 太子町との包括連携協定締結

令和8年3月24日に、高坂学長出席の下、各分野で協力し、地域の発展と人材の育成に寄与することを目的に、太子町との包括連携協定締結式を行いました。環境人間学部の学生による政策提言を契機とした協力関係を他分野にも拡大し、さらなる協力関係を構築していくことを確認しました。今後、教員・学生による同町への政策提言や事業参画等、連携事業を進めていきます。

太子町との包括連携協定締結式（於：太子町役場）



2 姫路市スキヒメ学生ライター事業の共催

姫路市との共催により、学生の視点から市政の取組を発信する「スキヒメ学生ライター」事業を実施しました。採択された本学の学生ライターは市公式note「スキヒメ学生ジャーナル」を通じて、魅力ある情報発信に貢献しました。令和8年度も共催事業として継続実施します。

3 県内市町との意見交換

包括連携協定先の県内自治体との具体的な連携を模索・検討するため、令和7年度は姫路市、明石市、西脇市、高砂市、太子町と意見交換を実施しました。引き続き意見交換を通じて、各自治体の政策的・施策的ニーズを把握し、連携を図っていきます。

姫路市 × 兵庫県立大学地域創造センター

「スキヒメ学生ライター」募集！

姫路市公式note

若者の皆さんに、もっと姫路市の取組を知って、姫路を好きになってほしい。そんな思いから、姫路市公式noteにて「スキヒメ学生ジャーナル」を創刊し、取材を行い記事を投稿していただけるスキヒメ学生ライターを募集します。自分なりの「スキヒメ」を発信してみませんか？

- ✓ 姫路市公式noteにあなたの記事が掲載される
- ✓ 行政のリアルな課題に触れることができる
- ✓ 市議員のナマの声を聴ける

募集期間 7/17(木)～8/20(水)
※Webサイトの受付フォームからご応募ください

「スキヒメ学生ライター」には？

- 対象 兵庫県立大学に在籍する学生
- 募集人数 10人程度
- 活動期間 令和7年(2025年)9月上旬～8年(2026年)3月31日
- 活動内容 下記のテーマに基づいた記事を作成し、市公式noteに投稿（2か月に1本程度）
- 記事テーマ ①子ども・若者社会、グローバル人材の育成、デジタルリテラシー教育、デジタルディバイド対策等
- その他
 - ・8月下旬～9月上旬に研修を実施します。
 - ・市職員が、取材や資料提供など、記事の作成をサポートします。
 - ・記事の内容について、一部修正をお願いする場合があります。
 - ・記事1本の投稿ごとに謝礼（2,000円）を支払います。 ※上限あり

姫路市 政策局 広報課
TEL: 079-221-2073
MAIL: kouhou@city.himeji.lg.jp

主催：姫路市
共催：兵庫県立大学地域創造センター

スキヒメ / 住みほかに 好きが深まる 市民のまち

募集フォーム QRコード

今後の展開

令和8年度は、以下を重点的取組として、地域連携活動の推進に取り組んでいきます。

1 「KOBE 学生政策提案チャレンジプロジェクト」の実施

大学都市神戸産官学プラットフォームの採択事業として、本学がプロジェクトリーダーとなり、実践的研修プログラムを実施します。包括連携協定先自治体及び神戸市の協力を得て、プラットフォーム加盟大学の学生が協働し、新長田ブランチャでの事前研修や現地ヒアリング調査を通じて、地域課題の解決に挑戦します。

2 「実践・長田学！ーナガキタ☆プロジェクトー」の実施

神戸市長田区北部地域を実践フィールドとし、長田区役所と連携したフィールドワーク授業を開講します。国際商経学部と環境人間学部の学生が協働して地域づくり活動に取り組み、新長田ブランチャを拠点に地域の活性化に貢献します。

プロジェクト名：ツキノワグマの資源利用の流動性に基づく出没要因の解明と
 出没防止対策の開発
 （環境省_環境研究総合推進費）

研究代表者：自然・環境科学研究所 教授 横山 真弓



横山 真弓 教授

研究概要

近年、全国各地でツキノワグマの市街地への出没が増加し、人身事故や農業被害が深刻な社会問題となっています。本研究では、クマの行動、生息環境、食物資源、個体の特徴を総合的に解析し、出没の仕組みを明らかにするとともに、科学的根拠に基づく出没防止対策の構築を目指しています。

兵庫県内でGPS首輪を装着したツキノワグマの位置情報を解析した結果、若齢オスは成獣よりも広い範囲を移動し、市街地へ侵入する際には通常より長い距離を一気に移動すること、農地や植林地を經由して生活圏へ入りやすいことが明らかになりました。また、自動撮影カメラによる生息情報、市民からの出没情報、捕獲個体の年齢・繁殖状況・栄養状態、糞分析による食性、森林内の食物資源量を統合して解析を進めています。

これらの成果を基に、季節ごとの出没リスクマップや出没予測モデルを構築し、「いつ・どこで・どのようなクマが出没しやすいか」を予測できる技術の開発を進めています。将来的には、侵入しやすい移動ルート防護方法や、クマの生息地保全のために山塊の連結性を確保する場所などを明らかにしていきます。これにより行政的に効果的な対策箇所の選定、地域住民への注意喚起などが事前対策として実施できるような仕組みづくりへ活用し、人とクマの軋轢を軽減することを目指しています。

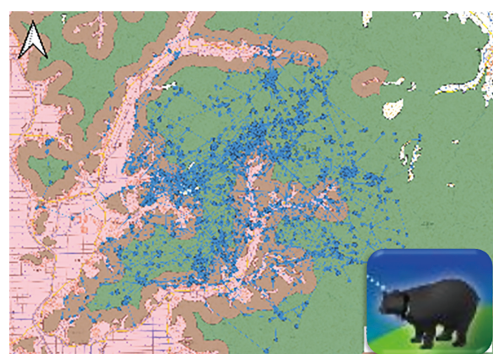
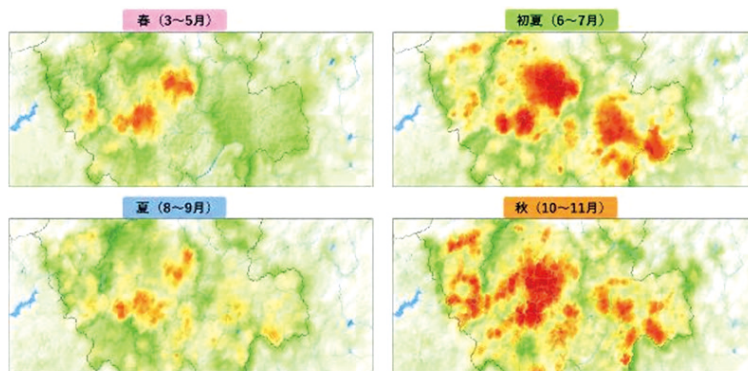


図1 実際のツキノワグマの行動データ。
 背景図は緑が森林、ピンクが市街地、
 中間が市街地から200mの範囲。



リスク：低 高
 〇 農地（概略） 〇 水域
 ※リスクはGPSデータの利用強度と土地利用、食物資源量などを統合して推定

図2 行動データなどから出没リスクが高い
 場所を推定した図。季節ごとにリスクに
 変化があることが明らかとなった。

プロジェクト名：介護リスク（認知症・MCI・抑うつ傾向等）早期発見のための
スクリーニング AI 開発に関する学術的支援
（受託研究）



林 知里 教授

研究者名：地域ケア開発研究所 教授 林 知里

中小企業イノベーション創出推進事業（SBIR）における「リアルワールドデータを活用した疾患ハイリスク者の早期発見 AI システム開発と予防介入の社会実装検証」の一環として、「介護リスク（認知症・MCI・抑うつ傾向等）早期発見のためのスクリーニング AI 開発に関する学術的支援」をリージョナルデータコア株式会社からの委託を受けて実施している。SBIR は、革新的な研究・開発を行う中小企業やスタートアップの成果を社会実装につなげることを目的とする日本政府による制度である。

具体的には、看護／保健学の立場から、スクリーニング AI 精度向上に向けたデータ収集への支援、収集したデータを活用した AI モデル構築への支援、スクリーニング AI モデルの精度検証支援およびアプリ開発支援等を行っている。本事業で担っている重要な役割は、ノイズの少ないデータを収集すること、構築した AI モデルの精度を高める場を提供すること、開発した AI モデルの社会実装をすることである。既にあるデータを分析するのではなく、データ収集の段階から研究を開始するという点が精度の高い AI モデル構築のために重要である。また、リアルワールドデータを扱うため、高齢者本人、家族、介護施設等の支援者との橋渡しおよび連携が必要となる。これは、継続した現場とのつながりによる信頼関係がなければ困難であり、看護／保健学の研究者の強みを活かせる側面と言える。

本事業では、地域住民、行政、企業、ステークホルダーとの協働的ナレッジ・コミュニケーションが円滑に進むかどうかは鍵となる。ナレッジ・コミュニケーションとは、自分が持っている知識を相手にきちんと伝わる形で伝え合うという協働的なコミュニケーションである。単なる情報交換ではなく、相手の理解や文脈を考慮して知識を伝え合うことに重点を置く。これまで、人と人が「つながる力」を科学的手法で明らかにしたいと思い、研究を行ってきた。これらの研究は、「言葉」や「寄り添い」といった看護／保健学が重要とするテーマに根本的なところでつながっている。

ここからは、本受託研究に関連する成果をいくつか紹介する。ひとつ目は、音声分析による認知症および軽度認知障害（MCI）、抑うつ傾向の診断補助ツールの開発および社会実装に対する学術的支援である。MCI には初期の自覚症状がほとんどなく、「あれ？ちょっとおかしいな？」と感じても、検査のための時間的負担や費用の負担、心理的なハードルがあり、医療機関への受診につながりにくい現状がある。しかし、MCI は早期発見・早期介入により、認知症への進行を防ぐことができると言われており、スクリーニングでリスクの高い人を抽出するシステムが求められている。認知機能の低下は、言語処理能力に影響を与え、音声の周波数や音律などの変化として現れることが報告されていることに加えて、日本語の音声データを用いた本研究は新規性および独創性が高く評価された。また、開発されたモデルにおいても高い精度と再現性が確認され、成果は Lancet Regional Health に掲載された。

ふたつ目は、AI 健康アプリを家族と一緒に使う「健康サポートバブル」介入についての研究である。高いエビデンスレベルが得られる研究手法のひとつであるランダム化比較試験を用いて、家族の「寄り添う」ケアが社会的フレイルの予防に効果があることを示した。成果は、国際的に評価の高いネチャー・パートナー・ジャーナルズ「npj Digital Medicine」に掲載された。この研究の成功の鍵も、協働ナレッジ・コミュニケーションであったと考える。2年以上にもわたる地域住民や行政、ステークホルダーとのかかわりがあったからこそ、介入デザインの明確化ができた。この成果は、AI ヘルスケアアプリの社会実装において広く活用できる知見である。

非介入群



健康サポートバブル「なし」

介入群



健康サポートバブル「あり」

独自に考案した「健康サポートバブル」介入の効果検証

最後は、転倒リスク確率を推定するツールの開発研究である。本事業では、すでに開発したツールを社会実装するところからのスタートで、社会実装科学の手法を基にした実践戦略に基づき実装を進めている。新聞掲載に加えて、明石シルバー人材センター主催の催しや自治体の骨折予防教室などで4000件程度実施されている。播磨町役場と協働で出展した「はりま春風フェス」では400名以上がブースに訪れた。

転倒確率予測フォーム CaRF



兵庫県立大学
UNIVERSITY OF HYOGO



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University



U-EXPO week
健康とウェルビーイング

あなたの1年以内の転倒確率を予測します。以下の10個の質問に回答してください。

R8.4.1 現在

部局名	センター名（設立年月日）	代表教員名	概 要
工学研究科	半導体デバイス・プロセス開発支援センター （令和6年4月1日）	神田 健介 	人工知能（AI）やビッグデータ、デジタルトランスフォーメーション（DX）の発展には、新たな半導体デバイス・プロセス開発が欠かせません。兵庫県立大学工学研究科には、長年にわたり蓄積してきた半導体材料、加工技術に加え、マイクロセンサーやアクチュエータに使われる MEMS や各種半導体デバイス試作、設計、評価に関する装置が多数あります。本センターでは、各種パターニング装置やエッチング装置、評価、設計設備を学内外のどなたでも利用できるよう開放するとともに、技術相談や試作、啓蒙・教育活動を行い、学内外の半導体デバイス・プロセスに関する研究を支援しています。（ https://d4uh.sakura.ne.jp/MEMSC/ ）
	地域共創ものづくり教育研究センター （令和6年4月1日）	荒木 望 	本センターは、①学内学生へのものづくり教育とその活動支援である「『ものづくりの場』の提供」、②地域のものづくり企業と強固に連携して新たな社会価値を共創する「ものづくりイノベーション拠点」の形成、③地域の中小高校生に対するものづくりや科学研究活動を支援する「理系人材の育成」、の3本柱を大きな趣旨として設立されました。本センターには、小型レーザー加工機、小型 NC 切削機、コンターマシン（切断機）、旋盤等の簡易的な機械加工機器を備えております。これら工作機器を学内の誰でも利用できるように整備・開放するとともに、技術相談や試作、啓蒙・教育活動等、ものづくりを具現化するための様々な支援をしています。
理学研究科	共同利用機器センター （平成30年4月1日）	宮澤 淳夫 	共同利用機器センターは、理学研究科として特色ある社会貢献を果たすため3つの目標を掲げています。(1)専門的な計測装置や独自の解析技術を集約し、学内外に開かれた共同利用の機会を提供すること。(2)企業等の研究者と理学研究科の教職員や学生との間で、技術と人材の交流を図ること。(3)産業界と協力して地域社会を発展させるため、産学連携共同研究の基盤を整備すること。これらの目標を達成するために、利用者のための講習会やデモ実験を行うと共に、オープンファシリティ使用規程を作成し、共同利用手続きを明確化しました。常に解析技術の向上と最新機器の導入に努め、理学研究科の魅力ある研究と技術を社会に還元していきます。
	フォトンサイエンス研究センター （令和元年4月1日）	田中 義人 	本センターは、物質科学における光科学研究拠点として創設されました。「複合ビーム物性研究」、「多重極限環境光励起物性研究」、「非線形・創発フォトンサイエンス」の3つの横断的なグループで構成されています。これらの連携のために、SPRING-8、SACLA、NewSUBARU 等の大型施設利用を含めた光計測を想定したデータの取得・処理・分析を担う統合システムの構築を目指します。特に計測データの入力部については、「質」を見極めた情報を「利活用できる形式」で提供できるよう、計測系-解析系のインターフェースを共用性の高いプラットフォーム上で構築することに重点をおいています。具体的な活動としては、試料治具作製の3Dプリンタ整備や計測器制御ソフトウェアのサイトライセンス化、および、横断的、複合的研究啓発のためのセミナー主催・共催を推進しています。
	バイオダイナミクス研究センター （令和元年4月1日）	當舎 武彦 	私たちの体の中では数万種類のタンパク質が働いており、エネルギー変換、物質輸送、物質代謝などの生命活動を担っています。本センターの母体であるビコバイオロジー研究センターは、タンパク質の構造をピコメートルレベルで解析するビコバイオロジーを推進してきましたが、本センターはそれに時間軸を導入し、タンパク質の機能時の動的構造や様々な制御因子との複合体構造をピコメートルレベルで解析する「ダイナミックビコバイオロジー」を開拓していきます。X線結晶構造解析、振動分光、クライオ電子顕微鏡による動的計測や、計算機シミュレーション、情報科学等を用いた理論解析を連関させた統合的な研究を目指します。
環境人間学部	エコ・ヒューマン地域連携センター （平成23年3月23日）	杉山 武志 	エコ・ヒューマン地域連携センターでは、「学生が動けば地域も変わる！」を合い言葉に、環境人間学部の学生・教員による地域連携活動を推進しています。地域連携活動とは、地域に関わるさまざまなアクター（住民、行政、NPO、企業、専門家など）と学生・教員が連携し、地域課題解決の新しいかたちを生みだすこととあります。その活動に参加することを通して、大学における教育と研究の充実も図っています。大学の資源（知識・技術・マンパワー）をいかし、地域の課題解決や価値の創造に挑戦することで、大学と地域の相互発展をめざしています。
	先端食科学研究センター （平成25年4月20日）	坂本 薫 	先端食科学研究センターでは、食・栄養・健康を基軸とした研究を推進すると共に、これらの研究成果を礎に、(1)基礎及び先端研究プロジェクトの企画、推進、(2)地域の企業等との連携、共同研究の推進、(3)県立大学オリジナルブランド商品の事業化の推進、(4)海外連携・国際的な研究の推進、などの事業に取り組んでいます。これまでに県立大学ブランド酒「うみぞ！」やその製造過程で生じる酒粕を活用した「酒粕塩飴」を創製しており、地域食品企業等や地元自治体等と連携し、SDGsに資する研究を推進するとともに、地域課題の解決に向けた研究を推進しています。さらに、講座開催やリカレント教育等を通して地域貢献を行い、関連研究所との連携や研究成果の公表等に取り組んでいます。

部局名	センター名（設立年月日）	代表教員名	概 要
看護学部	CNAS 看護実践支援センター （平成25年4月1日） ※令和7年4月名称変更 （旧：臨床看護研究支援センター）	川田 美和 	本センターは、ケア実践の場と連携を図り看護研究を発展させていくため設立されました。ケア実践の場で解決したい課題をもつ実践者と研究のノウハウを持つ大学の研究者が連携することにより、現場のニーズに添った研究を促進し、その成果を実践の場に還元していくことが本センターの役割です。平成24年度に現場のニーズ調査を行い、平成25年度はこれらの成果を学会および紀要で公表し、それを基に実際に支援を開始しました。現在は、実践で役立つセミナーの開催や研究に関する勉強会等を企画しています。また機関紙 Phenomena in Nursing を発刊し、臨床の知を明らかにすることに取り組んでいます。
	がん看護開発センター （平成25年4月1日）	川崎 優子 	2007年度から開始された文部科学省がんプロフェッショナル基盤養成事業（通称がんプロ）の活動を基盤として、がん看護開発センターを設置しました。がんプロは、2012年度から第2期、2017年度から第3期、2023年から第4期として継続実施しています。第4期からは、医療ビッグデータに基づく個別化医療、がん予防推進に関わる教育に重点化して人材育成に取り組んでいます。 活動実績としては、がん医療に従事する看護職を対象に多数のセミナーを開催し、最新のがん医療に対応した教育を行っています。臨床データを活用したがん看護の質改善をテーマとしたセミナーをはじめ、年12回のセミナーを開催、年間受講者は100名程度で、全国からの受講生を受け入れています。その他、がん看護の専門教員によるがん患者の意思決定支援、ゲノム情報に基づく Precision Nursing、造血幹細胞移植を受けたがん患者のフレイル予防などに関する研究が進行中です。
	周産期ケア研究センター （平成27年7月1日）	能町しのぶ 	本センターは、平成23年から行っていた活動が実り、平成27年7月に開設されました。安心で安全なお産を支えるための科学的根拠に基づいた看護・助産ケア方法の開発と質の高いケアを提供できる看護職の育成を目的としています。本センターは、兵庫県立尼崎総合医療センターの敷地内にあることから、医療センターのスタッフと連携して活動をしています。キャリア初期の助産師を対象とした基本的な臨床実践能力を育成する教育プログラムの開発と提供、少子化社会における子育て支援策のモデル事業として妊婦や乳幼児とその養育者が集う子育てまちの保健室を開催しています。今後も、医療センターならびに地域の専門職との連携を図り、周産期医療・看護の課題解決に繋がる研究と人材育成に取り組んで参ります。
	デジタルヘルスケア・センター （令和5年7月1日）	川崎 優子 	2019～2021年度研究課題「ビッグデータを活用した健康リスク予想と高度看護介入による新たなデータヘルスシステムの開発」の研究成果を基盤として、デジタルヘルスケア・センターを設置しました。当センターでは地域社会における「孤立」を予防するために、ライフサイクル上の健康課題に焦点をあて、情報科学研究科、工学研究科、先端医療工学研究所と連携体制を整備し、自治体とも連携して Well-being 支援のためヘルスケアシステムを構築する事業に取り組んでいます。 活動実績としては、淡路市、播磨町、明石市、三木市と「データを活用した健康保持・増進の推進に関する協定」を締結しました。各自治体保有のビッグデータ分析をもとに、がん検診、自殺予防対策、医療的ケア児、神経発達症児、自治体保健師の人材育成などの課題解決に向けたヘルスケア戦略の構築に取り組んでいます。
情報科学研究科	数理最適化データサイエンスセンター （令和6年4月）	加藤 直樹 	本センターは、複雑多様化する社会が直面するさまざまな課題に対して、数理最適化及びデータサイエンスに基づく視点・方法論・手段をもって企業が保有・蓄積しているデータを活用し、学問的な知見を広く社会に還元するための産学連携の拠点として、2024年4月に設置されました。数理最適化の技術やデータ活用に関する社員教育、経営効率の改善のための数理最適化技術やデータ活用技術の導入の支援、教員（中・高校）や教員を目指す学生に対するデータ活用方法に関する教育などを主な活動として、情報化社会の発展を図る活動に取り組んでまいります。
高度産業科学技術研究所	EUV リソグラフィー研究開発センター （平成22年10月）	原田 哲男 	2019年より先端半導体の量産には極端紫外線（EUV）リソグラフィー技術が適用されています。半導体の性能向上にX線領域の光である EUV は欠かせない存在となっています。本センターは、EUV リソグラフィーで必要となる材料を、放射光施設ニュースバルからの EUV を利用して、産業界と一体になり開発するため2010年に設立されました。特に、日本企業のシェアの高いフォトリソとフォトマスクの開発に寄与しており、産業界にとって必須の開発ツールとしてご利用いただいています。半導体性能向上には、EUV リソグラフィーのさらなる解像度向上が求められており、材料に要求される仕様はますます高くなってきています。これからも装置の高度化や新規導入を進めて、産業界の研究開発に大きく貢献できるように活動を進めています。
	放射光先端分析研究センター （平成28年8月）	中西 康次 	高度産業科学技術研究所では中型放射光施設「ニュースバル」を運用し、軟X線～硬X線を利用した分光分析により、触媒や水素エネルギー関連技術、蓄電池、鉄鋼などさまざまな産業用実試料の高度X線分析を行っています。本センターではこれらの分析利用を支援し、ものづくりにとって必要不可欠である材料の詳細な情報：その役割や反応機構、劣化機構などの知見を獲得、フィードバックすることで産業界へ貢献しています。また、各研究分野の教員やユーザーが分野横断的に意見交換を行い、新たな軟X線分析技術の高度化を協力して進めることで、さらに魅力のある分析技術を幅広い産業界ユーザーに提供することを目指して活動を進めています。

本学の最先端の研究成果や社会価値創造に向けた取り組みを産業界・地域社会に向けて発信することにより、本学のプレゼンスを積極的にアピールすると共に、産学公共創により産業界・地域社会の活性化を図ることを目的とし、神戸商工会議所で実施した。(R6年度は、姫路で開催)

主 催 兵庫県立大学価値共創シンポジウム2025実行委員会

(構成団体：兵庫県立大学、兵庫県企業庁、(公社)兵庫工業会、神戸商工会議所、(公財)ひょうご科学技術協会、(公財)兵庫県立大学科学技術後援財団、淡水会後援基金管理運用委員会)

日 時 令和7年9月26日(金) 10:20～17:30

(交流会は、17:40～19:00)

開催場所 神戸商工会議所会館(神戸市中央区港島中町6-1)

*交流会は同会館隣接のアリソンホテル神戸2階バレンシアにて開催

シンポジウム参加者数

326名 (交流会参加者:138名)

内 容

- 次第説明 武尾 正弘(社会価値創造機構副機構長) 10:20-10:25
- 開会挨拶 畑 豊(副学長兼社会価値創造機構長) 10:25-10:30
- 挨拶 國井総一郎(兵庫県公立大学法人理事長) 10:30-10:35
- 挨拶 高坂 誠(兵庫県立大学学長) 10:35-10:40
- 価値共創講演①～④(大学発スタートアップ) 10:40-12:00

①「ペロブスカイト太陽電池と水素燃料電池の普及に向けて」

株式会社先端化学研究所 代表取締役社長 岡本 和也 氏

②「みなさまの研究開発を計算化学で伴奏する“研究ベシスト”型ベンチャー」

株式会社計算科学研究所 CTO 鷺津 仁志 氏

③「現役学生起業家が挑む“兵庫県立大学発ベンチャー～学生起業のリアル～”

株式会社ペアマインド 代表取締役 船越 丈寛 氏

④「キャビテーションプラズマ殺菌水で実現する持続可能な農業

～食糧の安定供給と化学農薬削減の両立を目指して」

株式会社 YSH 総合研究所 代表取締役社長 岡 好浩 氏

(昼食休憩)

●来賓挨拶 三宅 俊也((公社)兵庫工業会会長) 13:00-13:05

●特別講演1 13:05-13:45

株式会社神戸製鋼所執行役員 木澤 尊彦 氏

演題：「鉄鋼業におけるGXの動向について」



●ポスター発表コアタイム(神戸商工会議所会館2階イベントホール)

13:45-15:10

研究発表(59件)、関係機関及び協賛団体、企業PRポスターほか(44件)



●価値共創講演⑤、⑥（産学公連携）

15：15－15：55

⑤「はりま新産業創出エコシステム～産官学金連携ではりま・ひょうごから新産業を産み出そう～」

学長特別補佐（学際研究担当）新ビジネス育成センター長（工学研究科教授）河南 治

⑥ 新長田ランチの挑戦～地域課題解決への貢献と新たな価値創造～

社会価値創造機構副機構長（工学研究科教授）武尾 正弘

●特別講演2

15：55－16：35

協和株式会社 代表取締役社長 野澤 重晴 氏

演題：「市場の変化に応じ、工場をグローバルに展開」



●特別講演3

理化学研究所 計算科学研究センター 次世代計算基盤開発部門 部門長 近藤 正章 氏 16：45－17：25

演題：「富岳 NEXT プロジェクト始動：HPC と AI の融合に向けたプラットフォームへ向けて」



●閉会挨拶 武尾 正弘 社会価値創造機構副機構長

17：25－17：30

●交流会（優秀ポスター賞表彰）

17：40－19：00

参加者の交流を深める交流会を開催し、138名が参加した。

また、学生のポスター発表（34件）を対象に選定された優秀ポスター5件に対し、表彰が行われた。



☆優秀ポスター賞 5件

	テ ー マ	発表者	所 属
1	深層学習を用いた腹部X線画像における慢性便秘症の自動定量化 ～AIによる客観的な診断がもたらす QOL の向上～	高島 直也	工学研究科
2	水素化社会実現に向けた、柔軟かつ低コストな水素生成用光触媒反応器の開発 ～水と太陽光から水素を生み出す光触媒シート～	井岡 大介	工学研究科
3	AIを用いた手術機械自動認識システム ～安心・安全な手術環境維持のための提案～	畑部 玲実	工学部
4	プラナリアの味覚依存的な摂食量調節機構 ～プラナリアも「美味しさ」を認識している～	福島 礼一郎	理学研究科
5	甲殻類・貝類廃棄部位のミネラル特性と利用価値 ～理想的なカルシウム強化食品開発への第一歩～	網野 鈴夏	環境人間 学研究科

JST 主催の「大学見本市2025～イノベーション・ジャパン」は、8月21日（木）、22日（金）東京ビッグサイト西4ホールで開催されました。2022年度より参加条件が特許の登録あるいは出願中のもののみに限定され、厳選された展示になっています。2025年度は本学から6件の応募に対し、採択は下記2件でした。

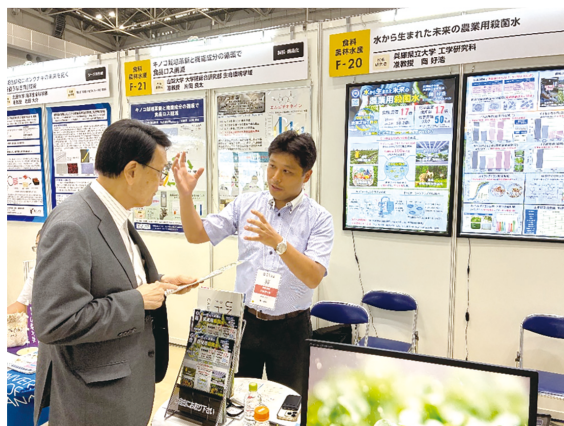
来場者数は昨年よりも約3割増加し14,208名にのぼり、各大学の最新の技術展示に対し各所で熱心な質問が飛び交っていました。初日には兵庫県選出の衆議院議員、渡海紀三朗元文部科学大臣が本学ブースを中心に見学され、大変熱心に質問されました。本学の研究シーズを全国に紹介する良い機会となり、社会実装に繋がるのが期待されます。

兵庫県立大学からのシーズ展示採択者

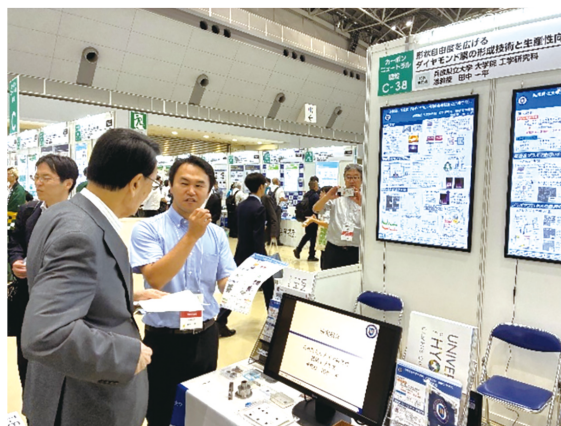
（順不同）

学部/大学院	専攻	役職 (2025年度職位)	氏名	展示タイトル	特許	単願・共願
工学研究科	電気物性工学専攻	准教授	岡 好浩	水から生まれた未来の農業用殺菌水	出願中	共願
工学研究科	機械工学専攻	准教授	田中 一平	形状自由度を広げるダイヤモンド膜の形成技術と生産性向上	出願中	単願

渡海元文部科学大臣の見学

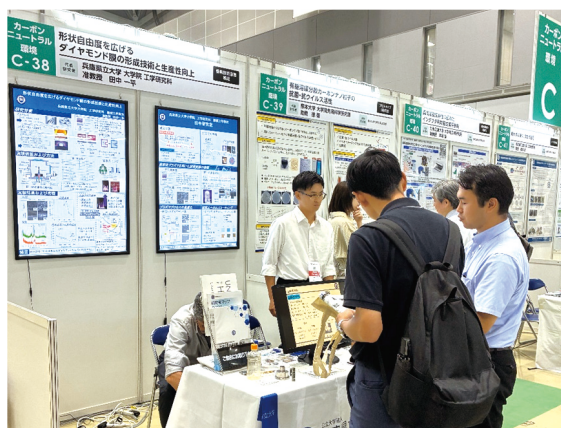
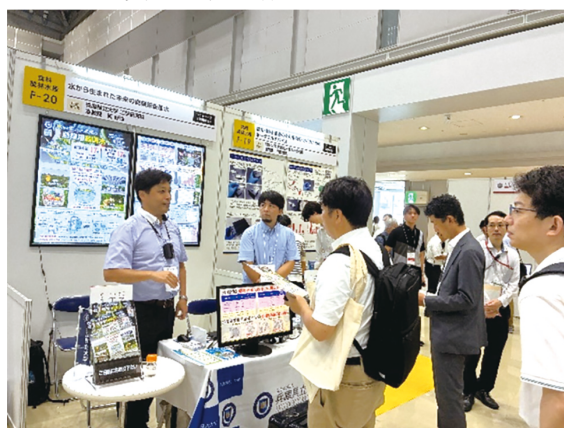


工学研究科 岡 好浩 准教授



工学研究科 田中一平 准教授

展示ブースでの質疑応答の様子



大学が地域企業のニーズに合致した研究を行い地域に貢献する人材を育成することを目的に平成21年から地元金融機関である西兵庫信用金庫の支援により「地域企業連携型・卒業研究事業」を、平成24年からは（公財）ひょうご科学技術協会の支援により「企業・大学院連携研究事業」を実施している。

事業の内容は、地域の産業活性化に貢献するような学部卒業研究及び大学院連携研究を指導教員、学部学生または大学院生と企業が連携して研究計画を作成し、学生が研究に従事するものである。過去にはこの中から中小企業で実用化につながる研究も生み出された。令和7年度の実績は下表のとおりであり、令和8年3月2日(月)に研究に参加した学生による研究発表会をじばさんびる5階の501会議室で開催した。

★地域企業連携型・卒業研究事業のテーマ一覧

発表学生	研究テーマ名	連携企業	指導教員
宇山 大樹 (B4)	粒子衝突による金属／樹脂の新しい突合わせ接合技術の開発	福伸電機株式会社	原田 泰典 教授
鈴垣 博斗 (B4)	機械学習に基づく超音波画像中の魚群検出と行動解析	古野電気株式会社	長宗 高樹 教授
副島 諒哉 (B4)	高濃度ナノバブル生成法の開発と応用	超微細科学研究所	飯村 健司 准教授
土井 康右 (B4)	城崎温泉における温泉水の「流路」の解明	城崎町湯島財産区	後藤 忠徳 教授
久保 穂佳 (B4)	営農型太陽光発電の普及方策と課題に関する研究	リビタス合同会社	増原 直樹 准教授

★企業・大学院連携研究事業のテーマ一覧

発表学生	研究テーマ名	連携企業	指導教員
地内 洸太 (M2)	非整数階制御器のデータ駆動設計の研究	株式会社木内計測	佐藤 孝雄 教授
中山 美咲 (M2)	低分子有機材料の新規重合技術の開発	ケニックス株式会社	部家 彰 准教授
藏面 友亮 (M1)	日本のアサリ資源復活に向けたアサリ幼生への微細藻類給餌の最適化	株式会社公栄水産	菓子野康浩 准教授

産業界からのニーズに対応した共同研究を推進するとともに、その研究成果を産業界に積極的に移転するため、次世代産業の育成や大学発ベンチャーをはじめとする新規起業への支援を行うインキュベーションセンターを平成19年2月に開設した。兵庫県立大学では、この施設において、大学が持つ技術シーズと企業等のニーズを組み合わせ、新製品や新技術の開発につながる研究を展開していく。

■施設概要

- ①所在地 兵庫県立大学姫路工学キャンパス
(姫路市書写2167)
- ②施設規模 延床面積 約1,500㎡ RC4階建
共同研究室20室(65㎡×16室、27㎡×4室)



■利用者一覧(令和8年4月1日現在)

研究室番号	利用代表者		その他の参画者		共同研究テーマ	備 考
9101	工	豊田 紀章	工	竹内 雅耶	クラスタービームによる表面改質技術の開発	
9102						
9103	管 理 室					
9104	工	鳥塚 史郎	工	伊東 篤志	水素エンジン用インジェクターの開発	
9105	工	柿部 剛史	工	中村 龍哉	高安全・長寿命な酸化物型固体電池の開発	
9201	本	竹内 章	本 工 工 本 本	山崎 徹 足立 大樹 永瀬 丈嗣 柳谷 彰彦 竹内 博之	金属 3 D 積層造形を目指した高強度ナノヘテロ合金粉末の開発	
9202						
9203	空 室					
9204	水素エネルギー共同研究センター					
9205						
9301	工	河合 正			グリーン・エコなマイクロ波フライヤーの開発	
9302	工	伊藤 省吾			ペロブスカイト太陽電池および水素燃料電池の開発	大学発ベンチャー企業が利用
9303	工	神田 健介	工	豊田 紀章 水戸部龍介	生体モニタリングシステムに関する研究	大学発ベンチャー企業が利用
9304	工	遊佐 真一			連鎖移動剤による重合制御性の評価	
9305	工	原田 泰典	工	田中 一平	物理蒸着法における密着性評価、適用に関する基礎研究	
9401	工	神田 健介	工	豊田 紀章	半導体デバイス開発関連（半導体に関わる微細加工, MEMS など）	
9402						
9403	工	永瀬 丈嗣			金属 3 D 積層造形を目指した高強度ナノヘテロ合金粉末の開発	
9404	工	松尾 吉晃	工	嶺重 温 稲本 純一 杉浦麻衣子 稲生 朱音	ナトリウムイオン電池負極材料の開発	
9405	工	川月 喜弘			光配向材料の研究開発	

本：大学本部 工：工学研究科

(1) 姫路地域産学官連携事業実行委員会の活動

(姫路市、姫路商工会議所、兵庫県中播磨県民センター及び本学社会価値創造機構の4者で委員会を構成。事務局は社会価値創造機構)

●企業・大学・学生マッチング in HIMEJI 2025開催

播磨地域等の企業による製品・技術の展示や、大学による研究シーズの展示等を行うことにより、新たな産学連携に繋がる機会を創出する。あわせて、学生に出展企業の製品・技術情報を提供することを通じて、学生が地域企業を知る機会の創出や、地域産業の振興、雇用マッチングの創出につなげることを目的に開催した。イベント当日は、665名の来場者があり、企業と学生、企業と企業、さらに企業と大学（教員等）が交流を深めた。

日時 令和7年11月14日(金) 11:30~16:30
場所 兵庫県立大学姫路工学キャンパス体育館
来場者数 665名
内容

・展示会

企業・団体や姫路市内の大学が、新製品や新技術の研究開発に結び付けるため、製品情報や技術情報等に関するパネルを展示した。また、これらの展示を通じて学生などに地域企業や製品・技術をPRした。出展数は、53社、17団体。

・宍粟市人財力フル活用プラットフォーム推進会議参加（共同開催）

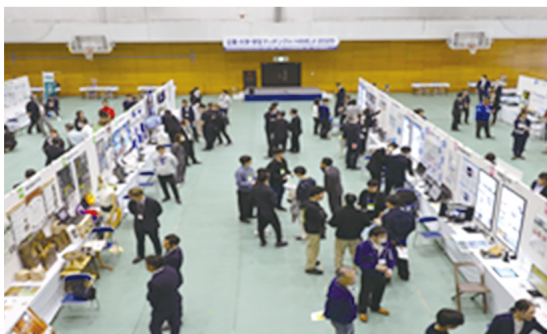
宍粟市、宍粟市商工会、西兵庫信用金庫が中心となって構成され、企業と学生とのマッチング等により若者の地元就職促進を目指す推進会議から、宍粟市内の企業9社が参加した。（展示会出展数の内数）

・理工系学生のための合同企業交流会参加（兵庫県産業労働部主催）（共同開催）

理工系学生に県内企業の魅力を知ってもらい、将来的なマッチングにつなげるため、合同企業交流会を開催し、地元の優れた技術を持つ企業10社が参加した。

・グッドブース賞

展示ブースの展示内容や装飾を工夫し、製品や技術を積極的にアピールしていた企業5社に「グッドブース賞」を贈呈した。



展示会場風景



理工系学生のための合同企業交流会ブース



宍粟市人財力フル活用プラットフォームの出展者



グッドブース賞受賞者

●人材育成セミナー

製造業をはじめとする多くの分野で、AI 技術を活用した業務革新が急速に進んでおり、AI はデータ分析や自動化、予測モデル構築など、DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進するための重要な要素となっている。

こうした中、AI 活用に欠かせないプログラミング言語を基礎から学び、最新の生成 AI を活用したプログラミング学習を通じて、AI 技術の基礎理解を深め、今後の業務や開発に欠かせない「実践的な知識とスキル」を身につけていただく研修を開催した。

日 時	令和 8 年 2 月 9 日（月）13：30～17：00
場 所	じばさんびる 4 階会議室（姫路市南駅前町123）
内 容	(1) 生成 AI によるプログラミング /Python プログラミング入門 (2) Python/Pandas によるデータ分析の基礎 (3) Python/Scikit-Learn による機械学習の基礎 (4) 生成 AI による画像認識アプリ作成
講 師	兵庫県立大学人工知能（AI）研究教育センター長 （兵庫県立大学大学院工学研究科電子情報工学専攻 准教授） 森本雅和
参 加 者	18名



主催者の挨拶



セミナーでの演習の様子

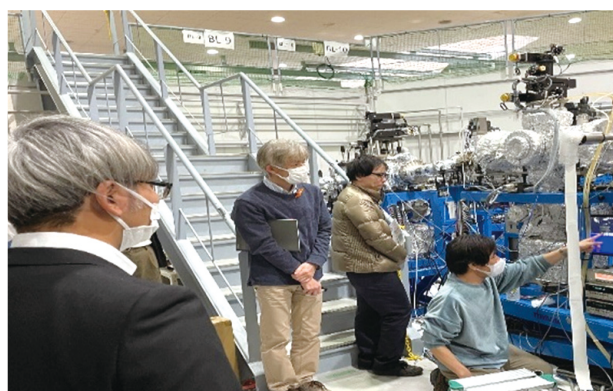
(2) 姫路市との連携

●ものづくりのための放射光分析実習

開 催 日	令和 7 年12月12日(金) 9：30～18：00
場 所	ニュースバル放射光施設（赤穂郡上郡町光都 1 - 1 - 2）
内 容	【講義】 ニュースバル放射光施設の紹介、X 線吸収分光の基礎、放射光利用事例 【実習】 X 線吸収分光実習（軟 X 線（BL09）、硬 X 線（BL05））、Athena を用いた XAS データ解析実習



講義の様子



実習の様子

(3) (一社) 兵庫県信用金庫協会との連携

●令和7年度川上・川下ビジネスネットワーク事業

本事業は川上企業である中小企業の有するビジネス・シーズ（優れた技術やノウハウ）と、川下企業である大企業・中堅企業のニーズとのマッチングを図り、有形・無形のビジネス成果を創出することや、国や中小企業支援機関と連携して販路拡大等の様々な施策を周知活用することを目的としている。兵庫県下の11の信用金庫と信用金庫のセントラルバンクである信金中央金庫が参画している。

兵庫県下の多くの信用金庫と連携協定を締結している社会価値創造機構はオブザーバーとして、ブラッシュアップ委員会、プレゼン会に参加している。令和7年度は、大学への技術相談が1件あり対応した。

ブラッシュアップ委員会		プレゼン会	
開催日	毎月2～3回（原則第二、第四木曜日）	開催日	毎月1回（原則第三木曜日）
場所	神戸市産業振興センター	場所	神戸市産業振興センター
内容	コーディネーター会議等で選出されたブラッシュアップ企業の経営者と共に経営課題を明確にし、具体的解決策を検討する。	内容	コーディネーター会議等で選出された企業が全コーディネーターに対して販路開拓のためのプレゼンテーションを行う。

(4) (公社)兵庫工業会との連携

●(公社) 兵庫工業会 令和7年度兵庫技術大学校

場 所 じばさんびる

【コース名 機械工学 Aコース】

目 的 機械工学の基本である4力学+材料特性を学び、企業の機械技術者として必要な知識を身につけ、技術の底上げと視野を広げること。

開催日・内容・講師

- | | | | | |
|---|----------|------|-----------|-------|
| ① | 5月16日(金) | 材料力学 | 工学研究科 准教授 | 木村 真晃 |
| ② | 5月23日(金) | 流体力学 | 工学研究科 教授 | 高垣 直尚 |
| ③ | 6月6日(金) | 熱力学 | 工学研究科 准教授 | 山口 義幸 |
| ④ | 6月12日(木) | 機械力学 | 工学研究科 教授 | 黒田 雅治 |
| ⑤ | 6月20日(金) | 機械材料 | 工学研究科 准教授 | 松本 直浩 |

【コース名 機械工学 Bコース】

目 的 機械工学Aから更に設計・製図・加工方法を学ぶことにより、機械設計技術者として必要な知識を身につけて専門性を深め、レベルアップした技術者を育成すること。

開催日・内容・講師

- | | | | | |
|---|----------|------|-----------|-------|
| ① | 6月27日(金) | 機械加工 | 工学研究科 准教授 | 阿保 政義 |
| ② | 7月4日(金) | 機械設計 | 工学研究科 教授 | 田中 展 |
| ③ | 7月11日(金) | 機械製図 | 工学研究科 教授 | 原田 泰典 |
| ④ | 7月18日(金) | 機械製図 | 工学研究科 准教授 | 佐藤根大士 |
| ⑤ | 7月25日(金) | 機械製図 | 工学研究科 准教授 | 荒木 望 |

【コース名 電気電子工学 Aコース】

目 的 電気を理解したエンジニアを目指すために、電気電子工学に関する基本を知り、実践へつながる知識を身につけること。

開催日・内容・講師

- | | | | | |
|---|----------|--------|-----------|-------|
| ① | 8月28日(木) | 電気回路 | 工学研究科 准教授 | 多田 和也 |
| ② | 9月4日(木) | 電気回路 | 工学研究科 准教授 | 多田 和也 |
| ③ | 9月11日(木) | 電磁気学 | 工学研究科 教授 | 上野 秀樹 |
| ④ | 9月18日(木) | アナログ回路 | 工学研究科 准教授 | 岡 好浩 |

⑤ 9月25日(木) デジタル回路 工学研究科 准教授 岡 好浩



講義の様子

●兵庫県立大学価値共創シンポジウム2025実行委員会構成団体として協働

●(公社)兵庫工業会会員企業からの技術相談への対応

(5) 龍野商工会議所との連携

●兵庫県立大学環境人間学部生が提案する地域企業のSDGsへのアプローチ（西兵庫信用金庫との共同事業）

目的 龍野商工会議所、西兵庫信用金庫および兵庫県立大学が相互に連携・協力し、地域企業のSDGsに関する取組みを支援することで、企業のSDGsに関する機運を一層高め、地域経済の持続的な発展につなげる。

取組概要 宍粟市・たつの市のものづくり企業・サービス産業を対象に、各企業のSDGsに対する取組をヒアリングするとともに、一歩踏み込み企業への提案を大学（学生主体）が行う。

活動内容 令和7年度は、以下の6社を対象に、現地調査とオンラインでの詳細ヒアリングを実施。

- ・対象 (株)イボキン、(株)TEIKOKU、ブンセン(株)、(株)オサキ、(株)緑葉社、(株)オーエスエム
- ・日程 令和7年5月～12月
- ・調査者 環境人間学部学生（3ゼミ計で約15名）
指導：増原直樹准教授、高橋綾子教授、中嶋一憲教授



発表会の様子

成果発表会 令和8年1月16日(金) 於環境人間学部キャンパスA棟

●工場視察見学会

龍野商工会議所会員企業が相互に工場を視察し、DX等に関する最新の取り組みを共有する視察見学会にオブザーバーとして同行。

第1回：令和7年4月23日(木)、株式会社ダイセル播磨工場、原田泰典教授（工学研究科）

第2回：令和7年6月11日(木)、日本丸天醤油株式会社、廣川智己助教（工学研究科）

●龍野商工会議所からの技術相談への対応

(1) 神戸信用金庫との連携

●2025年度 神戸信用金庫 産学連携研究会 次世代経営塾 財務会計の基礎知識・実践への活用

日 時：2025年6月10日(火)、7月22日(火)、11月12日(水)、2026年3月10日(火)
4回シリーズ 17:00～19:00

場 所：本店7階

主 催：神戸信用金庫・兵庫県立大学大学院社会科学部研究科経営学専攻

講 師：兵庫県立大学大学院 社会科学部研究科経営学専攻 准教授 矢嶋 聡

回	日 時	テーマ・講師	内 容
1	6月10日(火) 17:00～19:00	「今さら聞けない財務諸表・決算書の見方」	財務の勘所を知って頂くことを中心に、過去・現在・将来にわたる改善、投資、新規事業開発に関わる財務会計に対するスタンスを学びます。
2	7月22日(火) 17:00～19:00	「様々な経営指標の読み方」	事例をもとに、経営指標を計算し、その結果をどう評価するのかについて、参加者同士で意見交換して頂きます。
3	11月12日(水) 17:00～19:00	「投資案件の評価・予算策定」	事例をもとに、将来の投資案件に対する評価や分析を行います。予算と実績の管理を実施するためのいくつかの手法を紹介致します
4	3月10日(火) (2026年) 17:00～19:00	「キャッシュ・フロー計算書の構成と意味」	事例をもとにCF計算書の構成となぜCFが重要なのかという点について理解を深めて参ります。

※次世代経営塾 2025年度のねらい

【第1回目のねらい・ポイント】

経営者としての数字の勘所を知っていただくことを中心に、過去・現在・将来にわたる改善、投資、新規事業開発に関わる財務会計に対するスタンスおよび知識習得を目指すことを参加者全員で共有する。

【第2回目のねらい・ポイント】

事例をもとに、経営指標を計算し、その結果をどう評価するのかについて参加者同士で意見を交わす。評価は原因と今後の対策を中心に検討する。

【第3回目のねらい・ポイント】

事例をもとに、将来の投資案件に対する評価や分析を行う。

【第4回目のねらい・ポイント】

事例をもとに、CF計算書の構成をもとに、なぜCFが重要なのかという点について理解を深めていく。また、営業・財務・投資の3つの活動からCF計算書を概観し、それぞれの意味と分析手法をご紹介します。さらに、CF改善のポイントをお伝えする。

●兵庫県立大学価値共創シンポジウム2025への協賛等

●神戸信用金庫産学連携研究会会員企業からの技術相談対応

(2) 姫路信用金庫との連携

●兵庫県立大学 価値共創シンポジウム2025への協賛等

●姫路地域産学官連携事業実行委員会の監事として協働

●ひめしん研究開発支援助成金への協力

「ひめしん研究開発支援助成金」は、平成17年に姫路信用金庫と、本学社会価値創造機構の前身組織である姫路産学連携センターが包括提携協定を締結して以来、21年にわたって本学教員と地域企業との共同研究に姫路信用金庫から助成いただいているものである。

令和7年度は5テーマの応募があり、審査の結果、下記3テーマが採択された。7月25日(金)姫路信用金庫本店において授賞式が開催された。

企業名	テーマ	県大研究室
龍野商工会議所	カーボンニュートラル社会実現に向けた地域共同プロジェクト	環境人間学部 中畠一憲教授、 増原直樹准教授
株式会社日東社	産学連携によるマッチの新用途開発に関する研究	社会科学部 研究科 當間克雄教授
日高食品工業株式会社	とろろ昆布の食べ方・レシピ開発	環境人間学部 吉村美紀教授

(3) 西兵庫信用金庫との連携

●にしん助成金

本学での産学連携活動に充当することを目的とした助成金により「地域企業連携型・卒業研究事業」を実施した。(令和7年度5件、前掲22頁参照)

また、平成17年以降の西兵庫信用金庫からの継続的な支援に対し、令和8年3月27日に感謝状を贈呈した。



感謝状贈呈式

●兵庫県立大学環境人間学部生が提案する地域企業のSDGsへのアプローチ

(龍野商工会議所との共同事業)

●兵庫県立大学価値共創シンポジウム2025への協賛等

●西兵庫信用金庫顧客企業からの技術相談への対応

新商品開発に関する技術相談など

(4) 兵庫県信用保証協会との連携

●兵庫県立大学価値共創シンポジウム2025への協賛等

(5) 播州信用金庫との連携

●兵庫県立大学価値共創シンポジウム2025への協賛等

●播州信用金庫顧客企業からの技術相談への対応

●ばんしん経営塾（経営研究会）(2025年度 第4回目)における協働（セミナー講師擁立）

開催日：2026年3月6日(金)

会場：播州信用金庫 神戸本部

内容：組織変革

テーマ：「トップダウンではなく、自律的な社員が増えて欲しい時に考える人的資本経営『カチコチ組織を、創造的組織へ』」

講師：近藤 清人 氏（デザイナー、株式会社 SASI 代表取締役）



(6) 兵庫信用金庫との連携

●兵庫県立大学価値共創シンポジウム2025への協賛等

●兵庫信用金庫顧客企業からの技術相談への対応

(7) 但陽信用金庫との連携

●兵庫県立大学価値共創シンポジウム2025への協賛等

●但陽信用金庫顧客企業からの技術相談への対応

14-3 はりま産学交流会との連携活動

2025年度は2024年度同様、下記のとりの活動を実施した。

(1) 定時総会

5月16日(金)に開催され、令和7年度の活動方針が原案通り承認された。

(2) 創造例会2025

①日 時 6月20日(金) 13:30~18:40

兵庫県立大学からは次の講演を行った。

内 容 「大規模言語モデル時代の検索技術」

兵庫県立大学社会情報科学部 山本 岳洋 准教授

②日 時 7月18日(金) 13:30~18:40

兵庫県立大学からは次の講演を行った。

内 容 「微細藻類によるバイオものづくり」

兵庫県立大学工学研究科 伊藤 和宏 教授

③日 時 10月17日(金) 13:30~18:30

兵庫県立大学からは次の講演を行った。

内 容 「砂糖の融点変動と加熱熔融特性」

兵庫県立大学環境人間学部 坂本 薫 教授

④日 時 11月21日(金) 13:30~19:20

内 容 30周年記念事業

・「企業×学生 事業プロジェクトコンテスト 最終審査」

・パネルディスカッション「住みやすさも働き甲斐も No.1 はりま」

パネラー：清元秀泰姫路市長、畑 豊兵庫県立大学副学長、頃安雅樹龍野商工会議所会頭

(3) 視察研修

日 時 9月12日(金)~13日(土)

視 察 先 企業視察（錦城護謨株式会社、株式会社小泉製作所）、大阪関西万博

(4) 意見交換会

日 時 12月12日(金)に対面で意見交換会を実施。

内 容 次年度も事業化アイデアコンテストを継続実施することが決まった。

14-4 その他関係機関との連携活動

(1) スマートものづくりセンター但馬との連携活動

●技術セミナー in 但馬

主 催	兵庫県立但馬技術大学校（スマートものづくりセンター但馬）、兵庫県立大学、兵庫県立工業技術センター、兵庫県但馬県民局、豊岡市
日 時	令和7年12月4日(木)
場 所	豊岡市役所
内 容	講演「「ナノ製造科学」をもの作りの世界に」 講師 大阪大学工学研究科 栄誉教授 工業研究科附属精密工学研究センター センター長 山村 和也 氏 事業紹介 「兵庫県立大学 新長田ランチの紹介」 兵庫県立大学 社会価値創造機構 辻井 浩一 技術移転コーディネーター 他

(2) ものづくりビジネスセンター大阪（MOBIO）との連携活動

●MOBIO 産学連携会議

日 時	令和7年4月16日、6月18日、8月7日、10月15日、令和8年1月21日、3月18日
場 所	クリエイション・コア東大阪
内 容	参加機関との意見交換

(3) 豊岡市との連携活動

●第37回 豊岡市ものづくりセミナー

日 時	令和8年3月19日(木)
場 所	豊岡市民会館
テ ー マ	ものづくり企業の自動化・省力化
講演1	「自動化・省力化のためのセンシング・制御の基礎知識と応用事例」 兵庫県立大学 大学院工学研究科 機械工学専攻 准教授 荒木 望
講演2	「AIの現場導入事例から学ぶ成功と失敗の分岐点」 兵庫県立大学 大学院工学研究科 電子情報工学専攻 准教授 森本 雅和



荒木准教授の講演



森本准教授の講演

(4) 兵庫県立工業技術センターとの連携活動

●学術連携相談員による企業の技術相談への対応

14-5 各種マッチングフェアへの参加

●国際フロンティア産業メッセ2025

開催日	令和7年9月4日～5日(金)
場所	神戸国際展示場
内容	金属新素材研究センター・水素エネルギー共同研究センター・高度産業科学技術研究所・人工知能研究教育センター・先端医療工学研究所、価値共創シンポジウム等の紹介



15-1 産学連携協定の状況

(1) 社会価値創造機構と地域や経済団体等との連携協定 (20件)

R 8. 5. 1 現在

相手先	締結年月日	連携協力内容	交流内容
姫路市 姫路商工会議所	H16. 7. 20	①研究シーズや技術情報の公表・紹介、共同研究及び委託研究の推進 ②産業高度化施策の企画・立案、周知及び利用促進策の実施 ③企業ニーズの発掘・集約及び大学への紹介・斡旋 ④その他研究シーズ発表会、技術相談会、研究室見学会などの産官学の連携推進に必要な事業	○産学連携機構事務所の提供 ○産学官連携会議 ○産学連携機構開設記念講演会 ○産学官連携事業（セミナー等） ○県立大学シンポジウム（実行委員会、協賛金） ○姫路食品研究会 ○姫路市産業構造調査 ○姫路産業高度化センターセミナー（ものづくり・経営セミナー） ○姫路市企業人材育成プログラム（ものづくりのための放射光分析実習編）等
姫路信用金庫	H17. 2. 21	①企業の技術開発支援 ②企業ニーズの発掘及び大学等への紹介 ③民間企業等に対する技術相談 ④研究シーズ発表会の開催	○ひめしん研究開発助成金 ○県立大学シンポジウム（協賛金） ○SDGs 調査・提案活動
西兵庫信用金庫	H17. 5. 30	①企業の技術開発支援 ②企業ニーズの発掘及び大学等への紹介 ③民間企業等に対する技術相談 ④研究シーズ発表会の開催	○にしん助成金（地域連携卒業研究、西兵庫信用金庫異業種交流会） ○県立大学シンポジウム（協賛金）
宍粟市	H18. 2. 16	①宍粟市の行政施策に関する調査・研究・相談 ②研究シーズ又は技術情報の公表・紹介 ③研究ニーズの発掘・集約及び大学への紹介 ④共同研究及び委託研究	○調査研究講師紹介
(株)日本政策金融公庫 (旧 国民生活金融公庫)	H19. 3. 29	①地域中小企業の技術ニーズの把握 ②県立大学の研究成果等の研究シーズ紹介 ③地域中小企業の技術ニーズと県立大学の研究成果等の研究シーズのマッチングのコーディネート	
神戸商工会議所	H19. 8. 28	①地域産業の振興及び地元企業の育成に関する事項 ②まちづくり等の地域振興に関する事項 ③企業関係者等の人材育成に関する事項 ④企業ニーズの発掘・集約、紹介・斡旋	○県立大学シンポジウム（実行委員会、協賛金） ○連携研究会
神戸信用金庫	H20. 2. 5	①企業の活性化支援（経営支援、技術開発支援等）に関する事項 ②企業関係者等の人材育成に関する事項 ③企業ニーズの発掘・集約、及び大学への紹介・斡旋に関する事項 ④その他目的を達成するために必要な事項	○産学連携研究会 ○経営学部事業創造型インターンシップ ○県立大学シンポジウム（協賛金、紹介ブース）
兵庫県信用保証協会	H20. 10. 23	①地域経済・企業の活性化支援に関する事項 ②企業関係者等の人材育成に関する事項 ③プロジェクト研究等の実施に関する事項 ④その他目的を達成するために必要な事項	○MBA 冠講座事業（医療ファイナンス） ○NT レポート特別調査の一部共同研究事業 ○県立大学シンポジウム（協賛金、紹介ブース）
兵庫県中小企業団体中央会	H23. 6. 9	①中央会が行うセミナー等の企画・実施に対する教員・学生の派遣 ②大学における講義・研究会等への中央会の職員及び会員等の派遣 ③インターンシップに係る学生の派遣及び受入 ④学生（卒業生を含む。）の就職の円滑化を図る事業 ⑤中央会の会員等に対するものづくりや技術開発、経営革新、地域連携に関する支援事業 ⑥経営相談・分析ツールの共同開発事業 ⑦その他、本事業連携の目的を達成するための事業	○県立大CDによるセミナー ○共催・後援セミナー ○企業からの技術相談仲介 ○外部資金獲得サポート

相 手 先	締結年月日	連 携 協 力 内 容	交 流 内 容
播州信用金庫	H23. 6 .24	①企業の技術開発支援 ②企業ニーズの発掘及び大学等への紹介 ③民間企業等に対する技術相談 ④研究シーズの発信 ⑤その他本協定の目標達成のための必要な事業	○助成金 ○県立大学シンポジウム（協賛金）
(一社)兵庫県中小企業家同友会	H23.10. 5	①企業の技術開発支援、創業支援、販路開拓支援 ②企業ニーズの発掘及び大学等への紹介等 ③民間企業等からの技術相談への対応 ④研究シーズの発信 ⑤その他目標達成のための必要事業	○企業からの技術相談仲介
兵庫信用金庫	H25.10. 1	①企業の技術開発支援 ②企業ニーズの発掘及び大学への紹介 ③民間企業等に対する技術相談 ④研究シーズの発信 ⑤その他目標達成のための必要事業	○企業からの技術相談仲介 ○県立大学シンポジウム（協賛金）
(一財)近畿高エネルギー加工技術研究所	H26. 9 .10	①企業の技術開発支援、創業支援、販路開拓 ②企業ニーズの発掘及び大学への紹介 ③民間企業等に対する技術相談 ④地域産業活性化に向けた相互の研究協力 ⑤その他目標達成のための必要事業	○企業からの技術相談仲介
(公社)兵庫工業会	H27. 3 .24	①会員企業の技術相談、技術開発支援、創業支援、販路開拓支援 ②研究シーズの会員企業への発信 ③会員企業ニーズの発掘及び大学への情報提供 ④地域産業の活性化を担う人材の教育 ⑤目標達成のための相互交流、連携促進事業 ⑥その他目標達成のための必要事業	○会員企業からの技術相談仲介、委託研究・共同研究の実施 ○学生のインターンシップ先として、会員企業による受入 ○兵庫技術研修大学・幹部育成研修への講師派遣 ○DX 人材育成リカレント教育 ○県立大学シンポジウム（実行委員会、協賛金）
高砂商工会議所	H31. 3 .14	①地域産業の振興及び地元企業の育成に関する事項 ②まちづくり等の地域振興に関する事項 ③企業関係者等の人材育成に関する事項 ④企業ニーズの発掘・集約、及び紹介・斡旋 ⑤その他目的達成のための必要な事項	
(公社)兵庫県看護協会	R 2 . 6 .15	①医療現場のニーズの把握・集約及び提供に関する事項 ②提供されたニーズの民間企業等への紹介及び技術相談に関する事項 ③医療現場のニーズと研究成果等のシーズのマッチングのコーディネートに関する事項 ④その他連携協力の目的を達成するために必要な事項	○医療現場のニーズ説明会
但陽信用金庫	R 3 . 8 .31	①企業の技術開発支援、創業支援、事業承継支援、販路開拓支援 ②企業ニーズの発掘及び大学への紹介等 ③民間企業等に対する技術相談の開催 ④研究シーズの発信 ⑤地域産業の振興及び地元企業の育成 ⑥まちづくり等の地域振興 ⑦その他目標達成のための必要事業など	○県立大学シンポジウム（協賛金）
兵庫県東播磨県民局 神戸大学大学院農学研究科 京都大学大学院農学研究科 (一社)ため池みらい研究所	R 4 . 4 . 1	人的・知的財産や東播磨地域固有の地域資源等の活用を図り、地域づくり、教育、文化、福祉、産業、環境、防災など多様な分野で相互に協力し、活力ある地域の形成及び発展に寄与することを目的とする。 ①新たな地域づくりシステムの構築に関すること。 ②環境・経済エコシステムの構築に関すること。 ③地域人材の育成とネットワークの形成に関すること。 ④地域の知識、知恵、知見、経験、情報の管理や継承に関すること。 ⑤その他本協定の目的を達成するために必要な事項に関すること。	

相手先	締結年月日	連携協力内容	交流内容
龍野商工会議所	R 5 . 5 . 29	①地域産業の振興及び地元企業の育成に関する事項 ②まちづくり等の地域振興に関する事項 ③企業関係者等の人材育成に関する事項 ④域内企業間の交流・連携の促進に関する事項 ⑤その他本協定の目的達成のため必要な事項	○講演会 ○工学研究科見学会
(公財)尼崎地域産業活性化機構	R 7 . 4 . 18	①地域経済・企業の活性化支援（技術開発支援、経営支援、創業支援等）に関する事項 ②本学の研究成果等シーズの地域における活用に関する事項 ③尼崎地域産業活性化機構が推進するオープンイノベーションコア尼崎との連携促進に関する事項 ④地域企業ニーズの収集及び活用に関する事項 ⑤その他協定の目的を達成するため必要な事項	

(2) 全学を対象とした協定 (24件)

R 8 . 5 . 1 現在

相手先	締結年月日	連携協力内容	交流内容
(独)理化学研究所	H16. 4 . 1	兵庫県立大学大学院における教育及び研究への協力に関すること	
丹波市 兵庫県丹波県民局	H22. 8 . 7	①化石等の地域資源を活かした特色ある地域づくりに関すること ②人材育成に関すること ③学術・調査研究に関すること ④地域の魅力情報の発信に関すること ⑤その他、本協定の目的を達成するために必要な事項に関すること	○兵庫県立大学山南スタジオの設置（全学共通科目「化石と地域づくりフィールドワーク」の開講等）
豊岡市	H23. 5 . 12	①経済振興に関する事業 ②商工業振興に関する事業 ③人材育成・教育に関する事業 ④地域振興に関する事業 ⑤人と自然の共生に関する事業 ⑥ジオパークに関する事業 ⑦その他両者が必要と認める事業	○よくわかる出前セミナー、豊岡市ものづくりセミナー ○ものづくり技術相談会
(株)池田泉州銀行	H23. 8 . 23	①創業・新事業支援、その他地域経済の活性化に寄与する事項 ②大学発の企業・起業家に対する事業サポートに関する事項 ③学術・研究に関する事項 ④人材育成に関する事項 ⑤まちづくりに関する事項 ⑥その他両者が必要と認める事項	○ビジネス・エンカレッジフェアへの出展 ○ビジネス交流会 ○コンソーシアム研究開発助成金 ○ニュービジネス助成金 ○県立大学シンポジウム（協賛金）
宮城大学	H24. 6 . 27	①学生及び教職員の交流 ②共同研究及び共同事業の実施 ③学術情報及び資料の交換 ④その他の学術交流及び教育協力	○宮城大学・兵庫県立大学連携共同教育推進事業協議会
姫路市	H25. 5 . 7	①産学公の連携による産業の活性化に関すること ②地域の活性化に向けたまちづくりに関すること ③学校教育の振興及び発展に関すること ④社会教育、文化及びスポーツの振興並びに発展に関すること ⑤人材の育成に関すること ⑥健康・福祉の向上に関すること ⑦国際交流に関すること ⑧その他両者が協議して必要と認める事項	○地（知）の拠点（COC）推進戦略プロジェクト ○県立大学シンポジウム（実行委員会、協賛金）

相手先	締結年月日	連携協力内容	交流内容
神姫バス(株)	H26.11.10	①兵庫県内の新たな観光資源の開発 ②路線バスの利用と地域振興 ③地域ブランドの創出 ④地域人材の育成 ⑤地域住民の健康・福祉の向上 ⑥その他両者が協議して必要と認める事項	○BWB事業（中心市街地活性化事業等） ○バス路線発着点開発事業（ツーリズムの開発、地域観光資源発掘等）
(株)みなと銀行	H27.12.15 R 2.1.28 更新（データ利用に関する項目を追加）	①食分野における地域活性化支援 ②企業の技術開発支援 ③人材育成に関すること ④地域経済の活性化及び地元企業の育成 ⑤まちづくり等の地域再生 ⑥企業ニーズの発掘及び大学等への紹介 ⑦研究シーズの情報発信 ⑧その他本協定の目的を達成するために必要な事項	○「食未来エクステンションシンポジウム」開催 ○県立大学シンポジウム（協賛金）
高砂市	H29.5.25	①地域の活性化及び地域住民への活動支援 ②人的資源及び知的資源の活用 ③協働による調査研究及び事業の実施 ④主催事業に対する協力及び支援 ⑤その他、両者が協議して必要と認める事項	○就業体験（インターンシップ） ○市の政策、計画等への助言（審議会等委員） ○福祉医療制度の研究に関する協定締結（R1.10.16）
(株)ダイセル	H29.8.25	①共同研究の推進 ②相互の学術交流及び教員・研究者等の人材育成・交流 ③相互の講師派遣による先端学術分野教育の推進 ④学生のインターンシップ受入れ ⑤兵庫県産学連携ネットワークの拡大とその活用推進 ⑥その他本協定の目的を達成するために必要な事項	○共同研究（複数件）の実施 ○共同研究講座の設置
神戸大学	H30.1.23 R 4.4.1 再締結	①教育・研究に関すること ②人材養成に関すること ③地域社会への貢献に関すること ④国際社会の発展に資する活動に関すること ⑤その他両者が必要と認めること	
西脇市	H31.3.29	①地域住民の活動支援及び地域振興に関すること ②健康及び福祉の向上に関すること ③産業の振興及び産学連携の推進に関すること ④生涯学習の推進に関すること ⑤社会情報の活用及び協働による調査・研究に関すること ⑥人材の育成に関すること ⑦その他前条の目的を達成するために必要な事項	○連携授業（地域創生人材教育プログラム）の開催
(株)帝国データバンク	R 1.9.25	①研究・開発 ②教育・訓練 ③連携調査 ④社会貢献 ⑤合意するその他のテーマ	
県立姫路西高等学校	R 2.7.16	①生徒への高度な学習機会の提供 ②教職員等の研究・教育活動への協力 ③教職員間並びに学生及び生徒間の相互交流や研修の実施 ④インターネット等の情報流通手段を利用した連携協力事業の実施 ⑤その他必要と認める事項	
(国研)情報通信研究機構	R 2.10.15	①情報交換・発信 ②共同研究の実施 ③研究設備の相互利用 ④人材交流 ⑤連携大学院制度 ⑥シンポジウム等の開催 ⑦その他本協定の目的遂行上必要な事項	

相手先	締結年月日	連携協力内容	交流内容
兵庫県立はりま姫路総合医療センター	R 4 . 6 .29	①医療工学における医療ヘルスケア機器・看護介護・食栄養分野での相互の学術交流、研究基盤整備、研究者・医療従事者等の人材育成・交流 ②相互の講師派遣による医療ヘルスケア機器・看護介護・食栄養分野教育の推進 ③医産学連携ネットワークの拡大と活用推進 ④医療工学・医産学連携における課題解決 ⑤その他本協定の目的を達成するために必要な事項	○共同研究（複数件）の実施 ○はり姫電子カルテデータ2次利用の共同運用 ○県立大学客員研究員（はり姫看護師）及びはり姫臨床研究センター職員（県立大学教員）としての人材交流 ○イノベーションサロンにおけるコンサルティング業務（はり姫看護師） ○医療工学連携セミナーへの講師派遣（はり姫医師） ○共同研究推進に向けた共同事業（キックオフミーティング（研究所紹介）、臨床研究のための医療工学基礎セミナー）の実施 ○共催事業（はり姫看護師勉強会等）の実施 ○倫理委員会委員への相互就任
エスベック(株)	R 4 . 8 .30	①生物多様性の保全に関すること ②教育・学習・人材育成に関すること ③環境・エネルギー問題に関すること ④その他研究・技術開発・地域貢献に関すること	
日本ゼオン(株)	R 5 .12.21	①共同研究講座の設置等による共同研究の実施並びに研究者及びマネージャーの育成・交流 ②事業化に向けた知財戦略の策定のため、また、スタートアップ／ベンチャー支援等のための人材の育成・交流 ③組織、分野を越えた多様な連携の推進による研究成果の事業化、社会活用推進及びそれに向けた新たな規制や法制度等の研究、実証事業等の実施 ④その他、本協定の目的を達成するために必要な事項	
明石市	R 6 . 4 .26	①市と大学の人的・知的資源等の交流 ②市と大学の協働による調査研究の実施 ③市又は大学が主催する事業等に対する相互の協力・支援 ④地域課題解決に向けた産官学共創による取組 ⑤その他両者が協議して必要と認める事項	○明石市をフィールドに看護学部によるヘルスケア実習の実施
東京応化工業(株)	R 7 . 1 .16	①共同研究講座の設置等による共同学術研究の実施並びに研究者及びマネージャーの育成・交流 ②事業化に向けた知財戦略の策定のため、また、スタートアップ／ベンチャー支援等のための人材の育成・交流 ③組織、分野を越えた多様な連携の推進による研究成果の事業化、社会活用推進及びそれに向けた新たな規制や法制度等の研究、実証事業等の実施	
(公財)高輝度光科学研究センター	R 7 . 2 .27	①共同研究等の研究協力 ②人材交流 ③教育及び人材育成 ④研究施設・設備の相互利用 ⑤その他本協定の目的を達成するために必要な事項	加速器科学、ビームライン光学技術を含む放射光科学基盤技術の発展、学術利用成果の充実及び産業利用成果の社会実装を目指す

相手先	締結年月日	連携協力内容	交流内容
(株)ジェイテックコーポレーション	R 7 . 7 . 3	①寄附研究講座の設置等による共同学術研究の実施並びに研究者及びマネージャーの育成・交流 ②事業化に向けた知財戦略の策定のため、また、スタートアップ／ベンチャー支援等のための人材の育成・交流 ③組織、分野を越えた多様な連携の推進による研究成果の事業化、社会活用推進及びそれに向けた新たな規制や法制度等の研究、実証事業等の実施 ④その他、本協定の目的を達成するために必要な事項	
福島国際研究教育機構	R 8 . 3 . 10	①研究開発 ②人材育成 ③産業化 ④人材の交流 ⑤両者が保有する施設・設備の相互利用 ⑥両者が合意したその他の連携協力活動	
太子町	R 8 . 3 . 24	①町と大学の人的・知的資源等の交流 ②町と大学の協働による調査研究の実施 ③町又は大学が主催する事業等に対する相互の協力・支援 ④地域課題解決に向けた取組 ⑤その他両者が協議して必要と認める事項	

15-2 兵庫県立大学産学連携（学外）コーディネーター

社会価値創造機構は、産学連携について協力関係にある団体と連携して、大学の研究成果をより広く周知することにより、大学の研究シーズと産業界のニーズをマッチングさせるとともに、大学と共同で研究する企業の確保に取り組んでいる。

R 8. 4. 1 現在

機 関 名		氏 名	部 署 ・ 役 職
(公財)新産業創造研究機構	知財関係	森安 秀和	参与（行政関係、技術移転部門統括）
		福岡 誠	技術移転部門 知的財産センター長
		飯塚 昌弘	技術移転部門 知的財産センター 知財統括コーディネーター
		伊賀 友樹	技術移転部門 知的財産センター 知財コーディネーター
		西 誠治	技術移転部門 知的財産センター 知財コーディネーター
		松本 和久	技術移転部門 知的財産センター 知財コーディネーター
		泉 学	技術移転部門 TLO ひょうご 所長
		佐伯 公三	技術移転部門 TLO ひょうご コーディネーター
		後藤 亮	技術移転部門 TLO ひょうご コーディネーター
	研究・外部資金獲得関係	武馬 啓祐	研究開発部門長
		簾 一之	研究開発部門 主席
		山北 晃久	研究開発部門 主席
		武 浩司	研究開発部門 産学官連携総括ディレクター
		若井 雅友	研究開発部門 産学官連携コーディネーター（担当部長）
		坂川 佳司	研究開発部門 環境・エネルギー部長
		山本 芳孝	研究開発部門 環境・エネルギー部 研究開発コーディネーター
		大槻 聡	研究開発部門 航空・宇宙部 研究開発コーディネーター（担当部長）
		山東 良子	研究開発部門 健康・医療部長
		西野 公祥	研究開発部門 健康・医療部 研究開発コーディネーター
		久保田 寛	技術支援部門長
		安松 智	技術支援部門 生産性向上総括ディレクター
		畑中 豪	技術支援部門 ものづくり支援センター長
		服部 智	技術支援部門 ものづくり支援センター 副センター長
		宇野 知之	技術支援部門 ものづくり支援センター 生産性向上推進部 DX統括コーディネーター
		中嶋 勝己	技術支援部門 ものづくり支援センター 生産性向上推進部 ロボット統括コーディネーター
		玉垣 浩	技術支援部門 ものづくり支援センター 生産性向上推進部 コーディネーター
		村上 昭二	技術支援部門 ものづくり支援センター 生産性向上推進部 コーディネーター
		鎌田 徹	技術支援部門 ものづくり支援センター 生産性向上推進部 コーディネーター
		永山 貴久	技術支援部門 ものづくり支援センター 生産性向上推進部 コーディネーター
		鷲尾 昌彦	技術支援部門 ものづくり支援センター 生産性向上推進部 コーディネーター
		田中 良明	技術支援部門 ものづくり支援センター 生産性向上推進部 コーディネーター
		原田 修	技術支援部門 ものづくり支援センター神戸 連携推進コーディネーター（担当部長）
(公財) ひょうご科学技術協会		山田 和俊	播磨産業技術支援センター所長
(一財)近畿高エネルギー加工技術研究所		野崎 峰男	ものづくり支援センター 技術支援部 部長

S Tクラブでは、異分野の若手研究者が研究内容を紹介しあうとともに、企業関係者を含め自由闊達な意見交換を行い、学部・研究科を越えて交流・連携を促進する場を1回／2ヶ月、偶数月に提供している。

令和7年度は計画通りの回数（6回／年）を開催した。

第59回（令和7年5月27日開催）新長田ランチ

発表者	発表テーマ
(国研)情報通信研究機構 小金井フロンティア研究センター 量子 ICT 研究室 統括研究員 早坂 和弘	孤立原子イオンの量子状態計測制御とその応用
情報科学研究科 教授 円谷 友英	柔軟な意思決定支援に向けた区間評価の可能性
社会科学部 准教授 田島喜美恵	院内助産クロニクル

第60回（令和7年7月28日開催）姫路じばさんびる

発表者	発表テーマ
工学研究科 教授 浮田 芳昭	試行錯誤するマイクロシステムへの挑戦
環境人間学部 准教授 中出 麻紀子	「健康的な食習慣が大学生に及ぼす影響～朝食摂取に着目して～」
理学研究科 (D3) 隈下 敦貴	放射光 X 線回折で解き明かす極低温ヘリウム単原子層薄膜の構造研究
工学研究科 (D3) 前田 涼太	偏光による画像の認識理解

第61回（令和7年9月19日開催）新長田ランチ

発表者	発表テーマ
(国研)情報通信研究機構 未来 ICT 研究所 神経網 ICT 研究室 記憶神経生物学プロジェクト 主任研究員 櫻井 晃	学習・記憶の分子スイッチ機構の解明
社会情報科学部 助教 入江 穂乃香	バーチャルデータとアンサンブル学習で医用・スポーツ分野を開拓する
工学研究科 (D3) 橋本 尚典	強化学習による六足ロボットの歩行生成とその実機応用に向けた取り組み
情報科学研究科 (D3) 戸國 友貴	避難計画への実応用に向けた動的フローネットワークの理論基盤構築

第62回（令和7年11月25日開催）姫路じばさんびる

発表者	発表テーマ
工学研究科 助教 角田 祐輔	フィールドスワームロボティクス: 過酷な環境下で活躍する群ロボットシステムの構築を目指して
工学研究科 助教 藤谷 海斗	創薬の加速を目指したマイクロ流体システム開発への挑戦
理学研究科 (D3) 小林 弘樹	X 線光電子分光を用いた磁性測定における新たな理論計算方法の開発
工学研究科 (D3) 渡部 太希	X 線微細加工とその医療分野への応用

第63回（令和8年1月26日開催）新長田ランチ

発表者	発表テーマ
(国研)情報通信研究機構 未来 ICT 研究所 神戸フロンティア研究センター ナノ機能集積 ICT 研究室 研究マネージャー 山田俊樹	電気光学ポリマー材料・プロセス技術開発と超高周波電場検出への応用
情報科学研究科 教授 土方 嘉徳	AI の“提案”に、人はどう向き合う？——“人と人のつながり”による意思決定支援
情報科学研究科 助教 塩田 拓海	多面体の重なりを持つ／持たない展開図

第64回（令和8年3月27日開催）姫路じばさんびる

発表者	発表テーマ
環境人間学部 准教授 金子 一郎	遺伝子工学技術を駆使した栄養素機能・代謝の分子メカニズム
工学研究科 助教 大谷 祐貴	アルミニウム合金の金属3D プリンティング



研究テーマ発表の様子

17 外部資金

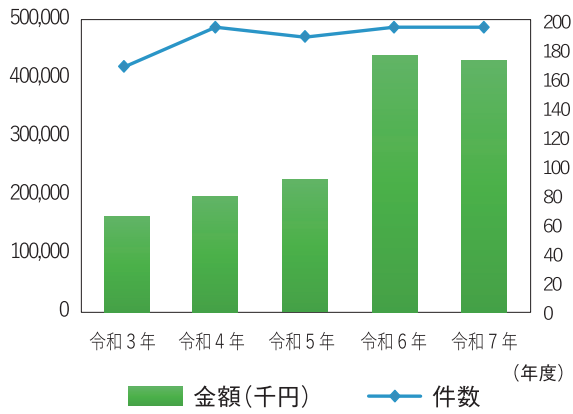
17-1 外部資金の推移

(単位：千円)

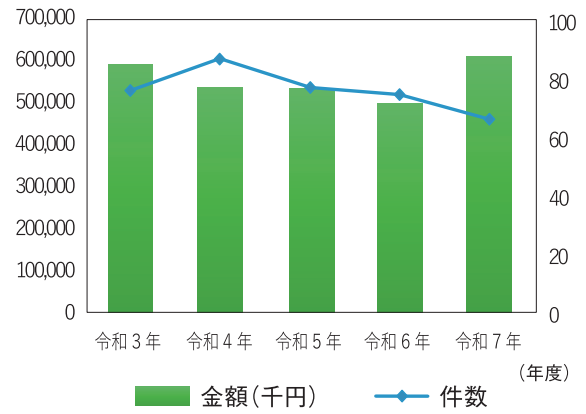
年度	区 分	助 成 金		受託研究費		共同研究費		科学研究費等 (厚生労働省分含む)		その他 (次世代EUVL関係の企業版 ふるさと納税含む)		計	
		件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
令和 7年度	国際商経学部	3	2,300	0	0	0	0	36	29,925	2	343	41	32,568
	工学研究科	91	99,586	18	155,437	81	128,165	97	180,193	14	22,852	301	586,233
	理学研究科	30	34,657	3	13,650	18	57,001	73	167,021	0	0	124	272,329
	環境人間学部	11	10,920	8	38,239	15	19,651	47	65,598	3	1,486	84	135,894
	看護学部	2	2,100	0	0	1	0	49	36,116	2	3,679	54	41,895
	社会科学研究科	0	0	1	132	0	0	5	4,680	0	0	6	4,812
	情報科学研究科	7	7,100	12	114,078	19	65,883	53	114,806	0	0	91	301,867
	緑環境景観マネジメント研究科	3	1,118	1	1,000	2	781	9	7,475	0	0	15	10,374
	地域資源マネジメント研究科	4	2,489	1	300	1	1,000	11	10,887	0	0	17	14,676
	減災復興政策研究科	7	4,825	2	7,441	3	5,270	16	5,456	1	240	29	23,232
	ソーシャルデータサイエンス研究所	0	0	1	910	0	0	0	0	1	2,000	2	2,910
	高度産業科学技術研究所	10	222,820	2	17,016	34	153,795	2	1,690	2	20,000	50	415,321
	自然・環境科学研究所	17	12,118	10	45,074	3	2,400	38	42,214	0	0	68	101,806
	地域ケア開発研究所	0	0	1	3,300	0	0	7	4,499	0	0	8	7,799
	先端医療工学研究所	8	24,250	0	0	3	6,800	2	130	1	1,000	14	32,180
	社会価値創造機構	2	1,900	4	212,340	4	2,670	1	130	2	64,891	13	281,931
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	195	426,183	64	608,917	184	443,416	446	670,820	28	116,491	917	2,265,827
令和 6年度	国際商経学部	8	6,250	1	435	0	0	33	26,689	0	0	42	33,374
	工学研究科	87	88,008	21	160,172	72	108,448	98	189,645	14	14,477	292	560,750
	理学研究科	35	55,948	4	28,080	16	67,603	82	214,250	1	9,496	138	375,377
	環境人間学部	16	12,835	12	34,743	6	8,672	52	57,849	2	148	88	114,247
	看護学部	4	5,000	0	0	0	0	70	55,809	2	2,890	76	63,699
	社会科学研究科	0	0	0	0	0	0	10	9,837	0	0	10	9,837
	情報科学研究科	5	5,456	14	144,584	19	59,575	61	152,605	0	0	99	362,220
	緑環境景観マネジメント研究科	3	1,700	2	2,000	1	576	11	5,953	0	0	17	10,229
	地域資源マネジメント研究科	3	1,500	1	132	1	1,000	8	7,046	0	0	13	9,678
	減災復興政策研究科	6	7,504	3	12,683	6	11,633	11	8,625	1	250	27	40,695
	政策科学研究所	1	1,400	1	74	0	0	0	0	0	0	2	1,474
	高度産業科学技術研究所	7	212,150	1	13,065	26	134,803	7	6,470	3	600,000	44	966,488
	自然・環境科学研究所	14	8,471	12	48,324	2	1,200	33	30,212	1	14,580	62	102,787
	地域ケア開発研究所	1	300	1	5,830	0	0	12	19,199	0	0	14	25,329
	先端医療工学研究所	5	22,000	1	3,721	5	16,938	3	2,030	1	2,000	15	46,689
	社会価値創造機構	2	1,900	3	44,950	4	1,870	1	130	4	347,552	14	396,402
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	197	430,422	77	498,793	158	412,318	492	786,349	29	991,393	953	3,119,275
令和 5年度	国際商経学部	2	450	1	436	0	0	32	26,030	0	0	35	26,916
	工学研究科	89	71,052	22	189,767	72	121,923	103	218,200	10	19,051	296	619,993
	理学研究科	30	61,706	6	52,649	20	89,510	71	172,947	1	5,000	128	381,812
	環境人間学部	16	20,238	7	9,190	4	4,723	49	48,199	2	137	78	82,487
	看護学部	3	3,111	1	87	0	0	69	66,741	2	3,272	75	73,211
	社会科学研究科	0	0	0	0	0	0	10	10,350	0	0	10	10,350
	情報科学研究科	8	6,365	16	159,566	21	53,908	66	150,819	0	0	111	370,658
	緑環境景観マネジメント研究科	3	1,249	1	1,232	1	456	9	8,203	1	1,232	15	12,372
	地域資源マネジメント研究科	3	1,500	2	432	1	1,000	13	13,262	0	0	19	16,194
	減災復興政策研究科	8	9,070	3	14,711	7	11,500	12	10,594	1	280	31	46,155
	政策科学研究所	1	1,300	1	241	0	0	2	820	0	0	4	2,361

年度	区 分	助 成 金		受託研究費		共同研究費		科学研究費等 (厚生労働省分含む)		その他 (次世代 EUVL 関係の企業販 ふるさと納税含む)		計	
		件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
令和 5 年度	高度産業科学技術研究所	8	13,350	3	35,525	31	109,611	10	13,340	2	200,000	54	371,826
	自然・環境科学研究所	10	5,880	12	50,823	4	3,200	36	31,211	1	16,200	63	107,314
	地域ケア開発研究所	1	1,816	1	770	0	0	16	28,350	0	0	18	30,936
	先端医療工学研究所	4	3,260	1	3,583	1	2,000	1	1,040	2	2,880	9	12,763
	産学連携・研究推進機構	2	1,900	1	1,170	4	1,760	1	130	6	280,900	14	285,860
	その他	2	20,000	1	11,050	3	6,346	2	650	0	0	8	38,046
	計	190	222,247	79	531,232	169	405,937	502	800,886	28	528,952	968	2,489,254
令和 4 年度	国際商経学部	4	890	1	900	0	0	38	30,749	0	0	43	32,539
	工学研究科	93	72,186	30	251,361	65	104,650	109	223,052	6	12,218	303	663,467
	理学研究科	31	26,406	5	28,832	22	59,091	78	178,832	0	0	136	293,161
	環境人間学部	16	13,094	7	8,971	7	7,937	67	71,544	1	75	98	101,621
	看護学部	2	4,460	2	645	0	0	72	73,648	2	10,081	78	88,834
	社会科学研究科	0	0	0	0	0	0	14	15,145	0	0	14	15,145
	情報科学研究科	14	14,900	17	121,095	30	69,661	82	150,051	0	0	143	355,707
	緑環境景観マネジメント研究科	4	2,197	1	562	0	0	9	10,118	0	0	14	12,877
	地域資源マネジメント研究科	2	2,500	1	300	0	0	15	19,673	0	0	18	22,473
	減災復興政策研究科	5	6,280	2	7,416	5	7,429	11	9,398	1	220	24	30,743
	政策科学研究所	0	0	1	200	0	0	4	4,360	0	0	5	4,560
	高度産業科学技術研究所	8	11,400	2	37,150	28	91,153	10	8,613	0	0	48	148,316
	自然・環境科学研究所	7	5,300	13	72,319	3	6,150	41	37,576	1	1,000	65	122,345
	地域ケア開発研究所	0	0	0	0	0	0	10	13,393	1	2,500	11	15,893
	先端医療工学研究所	4	8,250	2	5,913	1	1,000	4	4,560	1	2,000	12	21,723
	産学連携・研究推進機構	6	22,900	2	1,682	4	4,562	2	650	4	79,703	18	109,497
	その他	1	3,000	0	0	2	7,786	5	3,965	0	0	8	14,751
	計	197	193,763	86	537,346	167	359,419	571	855,327	17	107,797	1,038	2,053,652
令和 3 年度	国際商経学部	3	450	1	400	0	0	39	29,403	1	1,963	44	32,216
	工学研究科	95	80,696	30	315,693	63	93,900	104	228,158	10	33,553	302	752,000
	理学研究科	25	24,240	6	33,490	21	72,681	79	194,669	1	2,000	132	327,080
	環境人間学部	9	13,544	7	20,075	6	9,592	62	84,035	1	230	85	127,476
	看護学部	1	2,200	1	926	0	0	72	54,230	2	2,441	76	59,797
	社会科学研究科	1	3,747	0	0	0	0	13	13,518	0	0	14	17,265
	情報科学研究科	14	13,525	13	84,560	29	63,491	83	152,569	2	11,000	141	325,145
	緑環境景観マネジメント研究科	1	500	0	0	0	0	7	7,434	0	0	8	7,934
	地域資源マネジメント研究科	0	0	3	1,397	0	0	6	20,752	0	0	9	22,149
	減災復興政策研究科	5	5,110	2	8,100	1	2,230	10	13,707	0	0	18	29,147
	政策科学研究所	1	750	0	0	0	0	4	6,500	0	0	5	7,250
	高度産業科学技術研究所	6	6,710	2	50,400	34	71,842	8	5,785	0	0	50	134,737
	自然・環境科学研究所	8	2,800	10	63,613	3	2,596	40	31,418	1	1,000	62	101,427
	地域ケア開発研究所	1	0	1	913	0	0	8	9,975	0	0	10	10,888
	産学連携・研究推進機構	3	2,900	2	8,797	3	1,460	3	3,333	8	104,612	19	121,102
	その他	1	3,000	1	1,000	2	3,000	6	2,923	2	412	12	10,335
	計	174	160,172	79	589,364	162	320,792	544	858,409	28	157,211	987	2,085,948

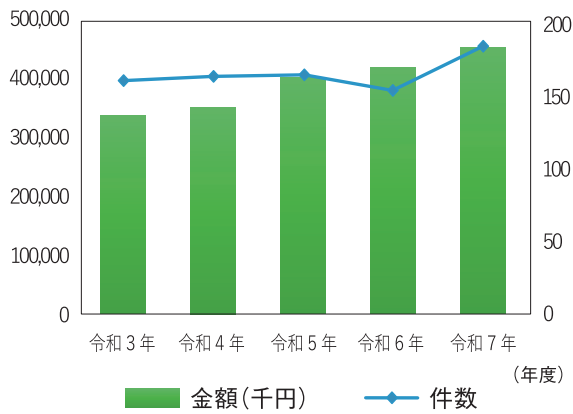
助成金



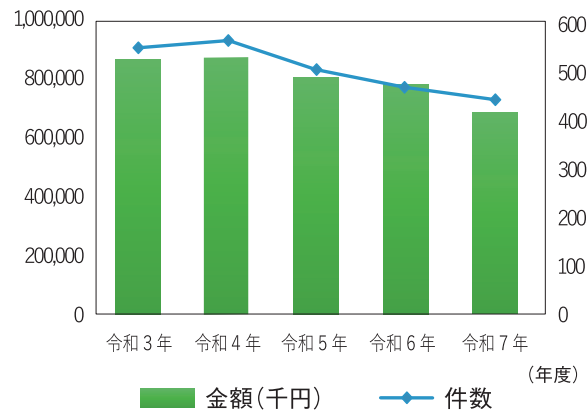
受託研究費



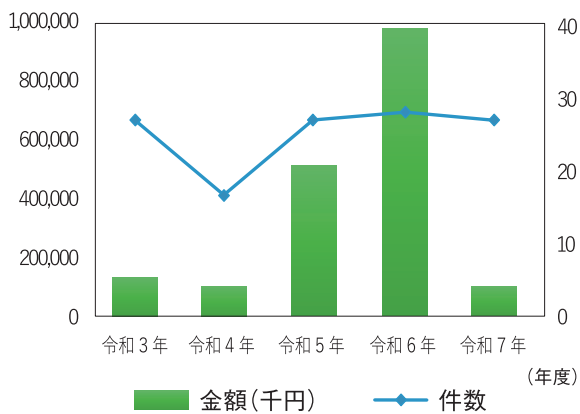
共同研究費



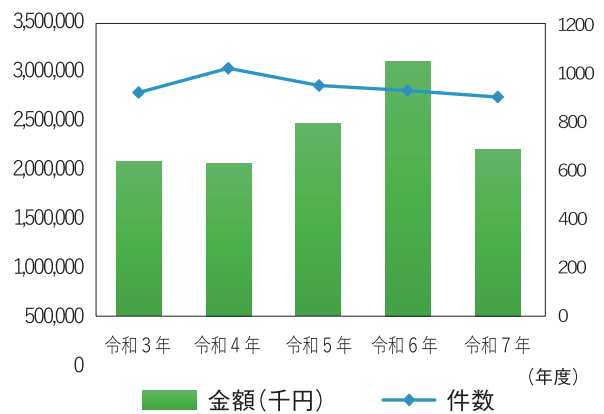
科学研究費等



その他

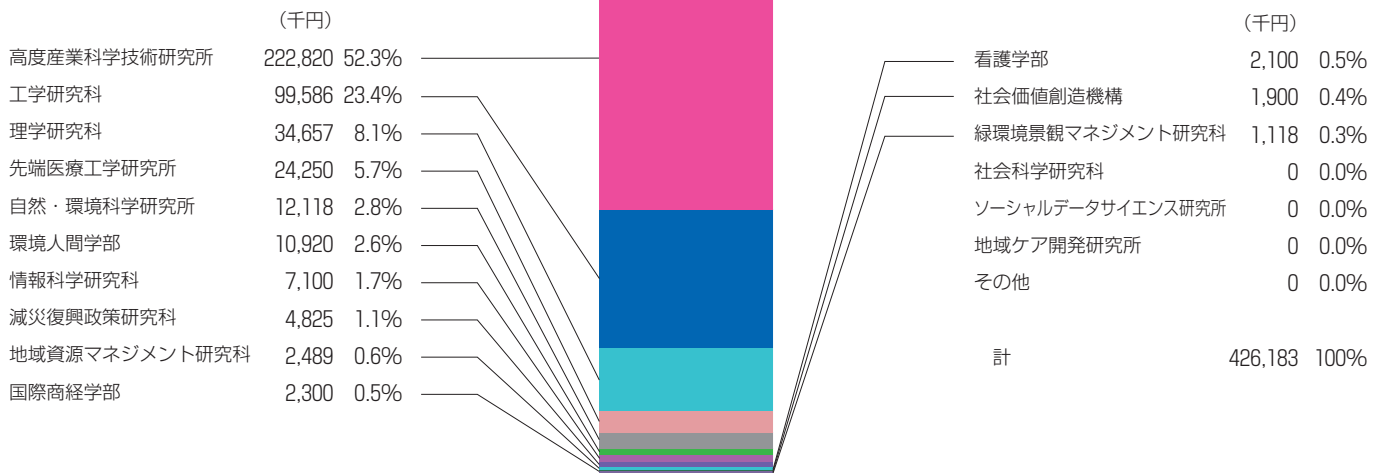


外部資金と件数の推移

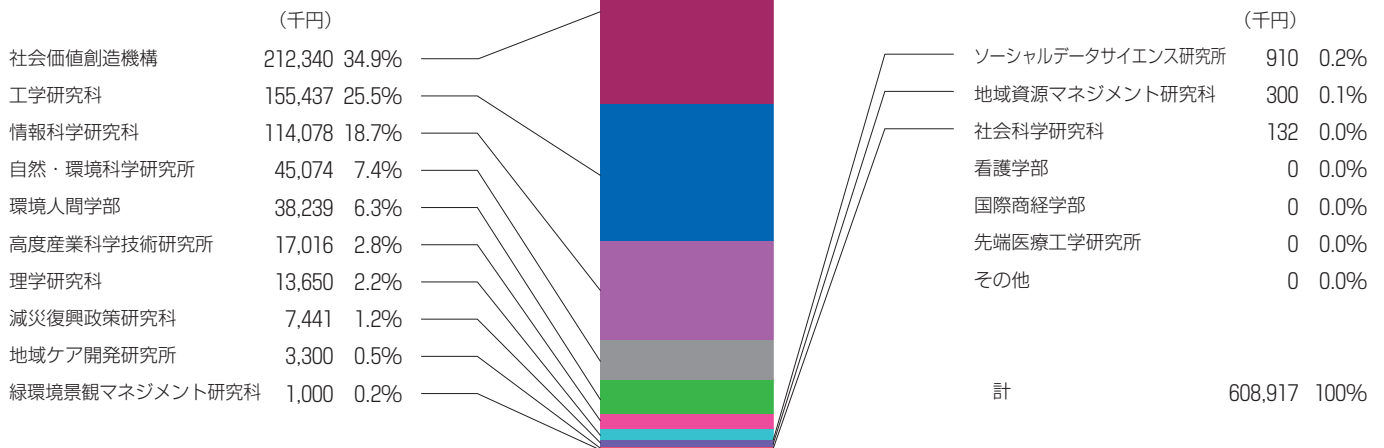


17-2 令和7年度 外部資金の部局別受入状況

【助成金】



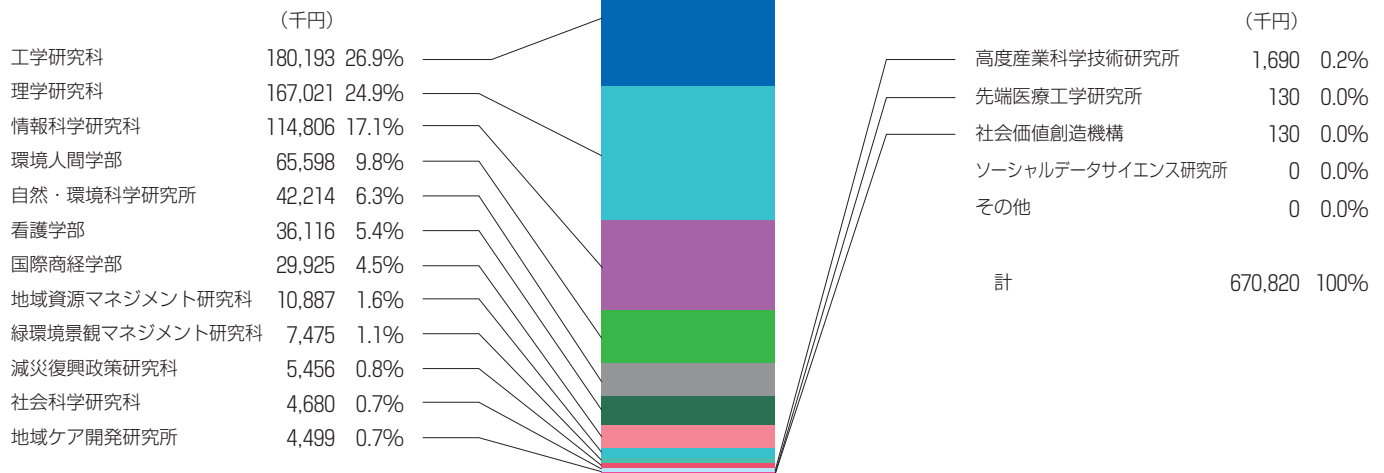
【受託研究費】



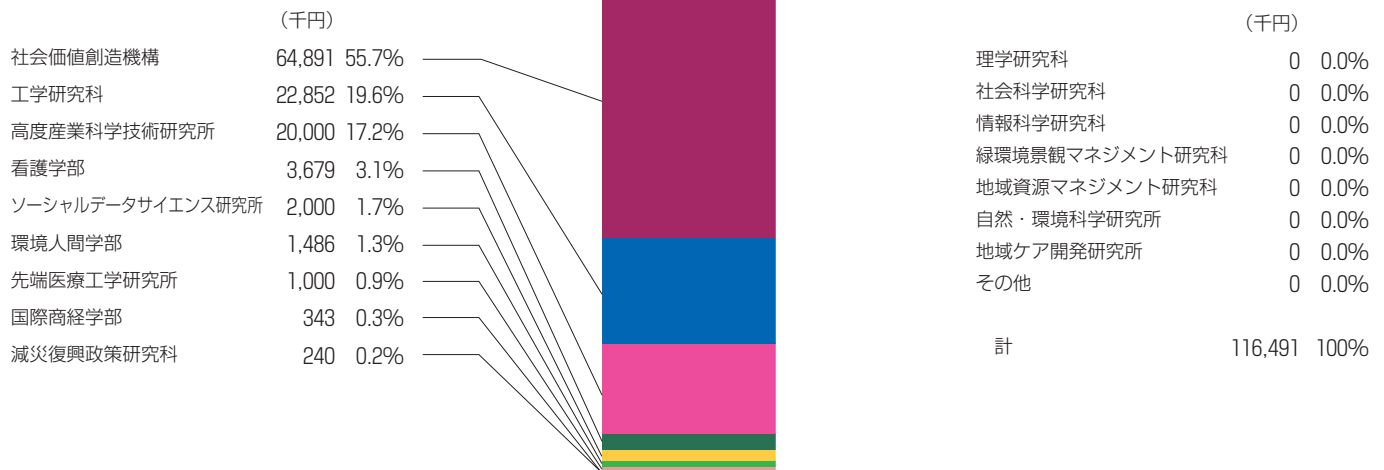
【共同研究費】



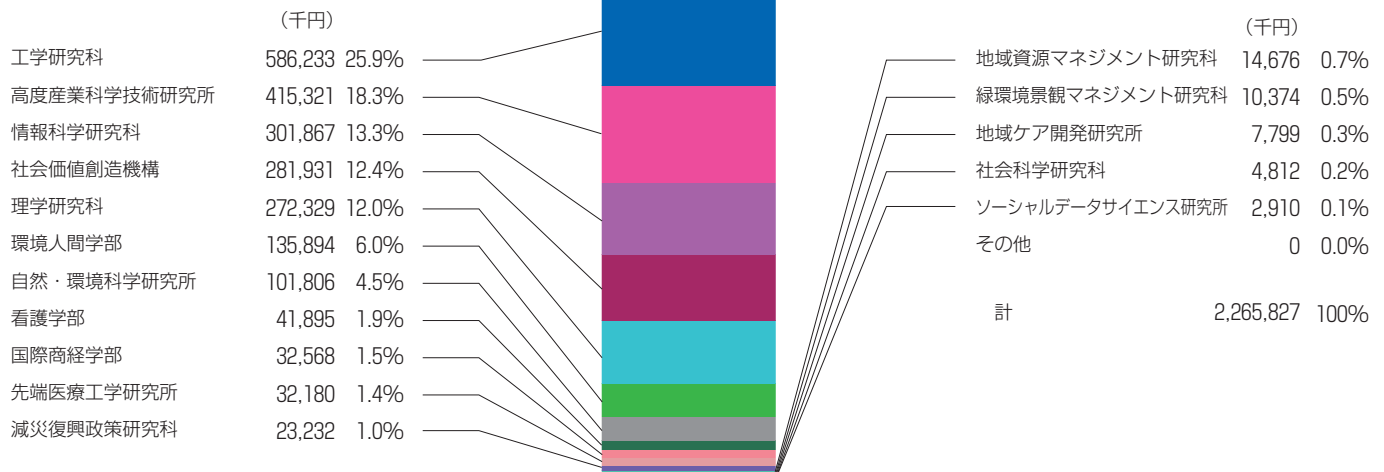
【科学研究費等】



【その他】



【計】



兵庫県立大学では、大学で創出される知的財産を組織として適切に管理・活用し、技術移転等による社会・産業界への貢献に寄与することを目的として、平成17年4月に「知的財産本部」（本部長は産学連携・研究推進機構長（現：社会価値創造機構長）が兼務）を設置した。平成25年4月には「知的財産本部」を産学連携・研究推進機構（現：社会価値創造機構）内に組み入れた。令和6年4月からは、産学連携・研究推進機構が社会価値創造機構に組織変更されたのにもない、知的財産本部を「知的財産マネジメント室」に変更し、社会価値創造機構・本部内に組み入れている。

(1) 業務内容

- (1) 知的財産に係る基本的な方針の企画及び立案
- (2) 知的財産の創出、保護、管理及び活用
- (3) 知的財産に係る財務管理
- (4) 知的財産をシーズとする共同研究、受託研究の企画及び推進
- (5) 知的財産の管理及び活用における TLO 等外部機関との連携
- (6) 知的財産を経営資源とする大学発ベンチャーの創出及び支援

(2) 発明届の審査の流れ

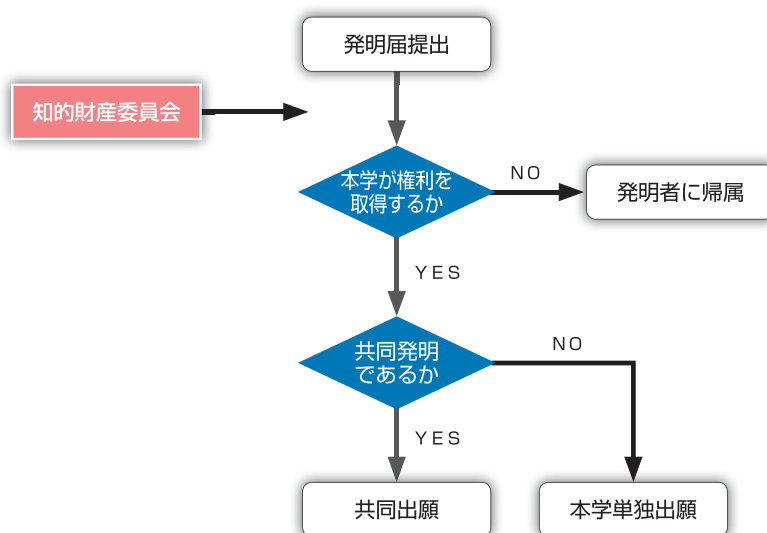
大学教員が発明を行った場合は知的財産マネジメント室へ発明届を提出することになっており、当該発明に係る権利の取扱いは、知的財産委員会での審査に基づき決定される。（下図参照）。

令和7年度の発明審査の状況及び特許出願状況は以下のとおり。

- ・ 発明届出数：22
- ・ うち本学が権利を取得した数（本学帰属件数）：22
- ・ 特許出願件数 18（本学単独出願7、企業等との共同出願11）

本学が特許を受ける権利を取得した発明については、順次、特許出願を行い、特許権の権利化を図っている。

本学単独出願または公的機関との共同出願（大学持分比率50%以上）の内、外国出願を希望する発明については、科学技術振興機構（JST）に支援申請を行い、支援を得られるもののみ外国出願を行っている。



技術移転可能な出願特許一覧

(R 8.3.31現在)

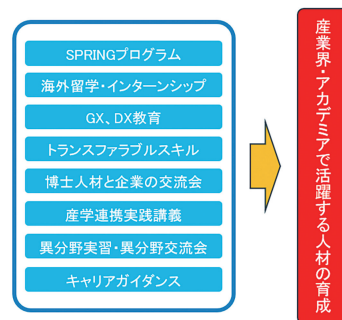
番号	発 明 の 名 称	出 願 番 号	備考 (特許番号)
1	欠陥特性評価装置	特願2011-153900	(P5846681)
2	金属の回収方法及び金属回収装置	特願2012-043299	(P5945429)
3	短波長コヒーレント光源及び透過型の減光装置	特願2012-060637	(P6031659)
4	表面増強ラマン測定方法および表面増強ラマン測定装置	特願2014-090392	(P6410290)
5	組成変調されたリン酸コバルトリチウム化合物からなる正極材料、及び、その製造方法、並びに、高電圧リチウムイオン二次電池	特願2014-019610	(P6356425)
6	水電解用電極及びその製造方法	特願2014-230953	(P6434280)
7	表面増強ラマン測定方法および表面増強ラマン測定装置	特願2014-233338	(P6536931)
8	ナノ粒子回収方法	特願2014-242973	(P6470025)
9	鉄板およびその製造方法	特願2015-032147	(P6537131)
10	薄膜積層構造体及び太陽電池	特願2015-035675	(P6489867)
11	光変調器	特願2015-118387	(P6547116)
12	圧電センサ	特願2016-065610	(P6699830)
13	金属酸化物ナノ粒子の製造方法	特願2016-160933	(P6774014)
14	偏光制御装置および偏光制御方法	特願2016-230675	(P6817623)
15	金属の回収方法及び金属の回収システム、並びに溶液の再生方法及び溶液の再利用システム	特願2016-514844	(P6553596)
16	金属の回収方法、金属の回収装置、金属回収システム、及び金属粒子の製造方法	特願2016-518776	(P6573603)
17	珪藻の新規形質転換ベクターおよびその含有する新規プロモーター配列	特願2016-547436	(P6573400)
18	多節環状弾性体	特願2017-045107	(P6869533)
19	カーボンナノファイラー分散液及び複合材料	特願2017-167783	(P6892075)
20	高温酸化TiO ₂ の自己組織化層状組織を利用した複合層状構造体	特願2017-019729	(P6879540)
21	繊維状チタン酸アルカリ土類金属の製造方法	特願2017-085534	(P7004284)
22	リチウムニッケルマンガン複合酸化物及びその製造方法並びにそれを用いた正極及び蓄電デバイス	特願2017-505293	(P6691714)
23	アプタマーを利用する標的物質の定量方法	特願2018-069360	(P7085190)
24	高強度・高延性微細マルテンサイト組織鋼材及びその製造方法	特願2019-027381	(P7406762)
25	摩擦の観察方法及び観察装置	特願2019-085441	(P7191379)
26	クラッド容器の製造装置、製造方法、およびクラッド容器	特願2019-094092	(P7219968)
27	測定用基材及びその製造方法、並びに発光分光分析装置及び発光分光分析方法	特願2019-099115	(P7280110)
28	表面改質金属とその製造方法	特願2019-150902	(P7386508)
29	超微細フェライトーセメンタイト組織鋼、超微細フェライトーオーステナイト組織鋼、超微細マルテンサイト組織鋼および超微細マルテンサイトーオーステナイト組織鋼の製造方法	特願2019-159068	(P7553065)
30	多層材及びその製造方法、多層材メッキ方法	特願2019-161565	(P7391356)
31	光変調器	特願2019-506980	(P7037199)
32	温間プレス成形装置および温間プレス成形方法	特願2020-137610	(P7471641)
33	新規リンゴ酸脱水素酵素	特願2020-189657	(P7656889)
34	エレクトロクロミックデバイス	特願2021-051935	(P7651163)
35	正極材料、その製造方法及び全固体型フッ化物イオンシャトル電池	特願2021-202113	(P7728006)
36	成膜装置	特願2022-034683	
37	成膜装置	特願2022-176925	
38	ペロブスカイト太陽電池	特願2022-161850	
39	酸素還元触媒	特願2023-033156	
40	正極材料、その製造方法及び亜鉛負極二次電池	特願2023-074723	

産学連携キャリアセンターは、研究員、ポスドク、博士課程学生を対象に博士人材育成プログラムを実施している。本学は、令和3年2月に文部科学省の「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」に採択され、令和6年4月からは、科学技術振興機構（JST）の「次世代研究者挑戦的研究プログラム」（SPRINGプログラム）に受け継がれて、博士後期課程学生への経済的支援を含めた取り組みを行っている。学生には、研究力向上・キャリアパス開発に係る支援メニューを受講してもらい、アカデミアのみならず産業界でも活躍できる人材育成を目指している。また、博士前期課程学生に対し、博士後期課程への進学意欲向上を図る取り組みも行っている。

1. 博士人材育成プログラム

本学の博士人材育成プログラムの要素と構成を右図に示す。

SPRINGプログラムを活用し、全ての博士課程学生にも支援メニューを共有して研究力向上・キャリアパス開発に取り組んでいる。



2. 「SPRINGプログラム」概要

(1) SPRINGプログラムによる支援

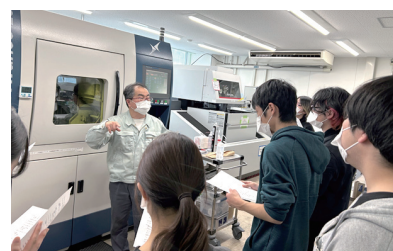
- ・支給金額（年額）：研究奨励費204万円と研究費50万円
- ・対象研究科：理学，工学，情報科学，環境人間学，社会科学
- ・支援人数：21名（令和7年度）

(2) 異分野融合教育（異分野実習）

- ・指導教官と異分野メンター（2名）による研究指導
- ・異分野実習（AI・情報技術、放射光分析、金属3Dプリンタ）

(3) キャリア開発支援

- ・産学連携実践講義（企業等の講師によるリレー講義）
- ・博士人材と企業との交流会、海外研修、GX研修など



金属3Dプリンター実習の様子

3. 「SPRINGプログラム」令和7年度活動

(1) 異分野融合教育（異分野実習）

- DX教育（令和7年9月5日～10月31日）
「データ駆動科学 基礎とPythonによる実践」コース（6日間）
- 放射光分析実習（令和7年12月12日）
ものづくりのための放射光実習（ニュースバル、1日間）
- 金属3Dプリンタ実習（令和8年1月15日、16日）
金属3Dプリンタ講習と実習（金属新素材研究センター、2日間）

(2) キャリア開発支援

- 産学連携実践講義（前期15回、令和7年4月10日～7月31日）
企業等の学外講師によるキャリアと研究開発事例についての講義（受講者：本学60名、連携大学3名）
- 博士人材と企業との交流会（博士・企業の双方向の交流）
延べ23名参加（13大学主催11名、北海道大主催3名、東北大主催1名、筑波大主催2名、横浜国大主催1名、名古屋大主催1名、神戸大主催2名、大阪公立大・兵庫県立大 共同主催2名）
- SPRINGプログラムシンポジウム（令和8年2月3日）
講演：内橋欣也氏（シスメックス株式会社執行役員）「博士人材へ期待すること」
（参加者：学生16名、教職員15名）
- 海外派遣研修（令和7年10月25日～11月2日：ルーマニア、令和7年11月17日～22日：タイ）
博士後期課程の学生5名をルーマニアに、3名をタイに派遣し、提携大学、日系企業等との交流を実施。
- 見学会（GX教育：令和7年6月25日川崎重工業、異分野融合教育：令和7年10月7日人と自然の博物館）
川重明石工場のロボット製造工場と人と自然の博物館の研究施設などを見学。

2025年度 前期 兵庫県立大学 社会価値創造機構 博士人材育成プログラム 産学連携実践講義 木曜日・第5限 16:20～17:50				
講義形式：ハイブリッド（工学ノスタリスキャンパスでの対面＋オンライン） 対 象：博士前期課程、博士後期課程、ポスドク（連携大学を含む） 単 位：2単位 工学研究科、理学研究科の博士前期・後期課程（兵庫県立大学）				
回	日付	講義テーマ	講師	
第1回	4/10	オリエンテーション 企業が博士に期待していること 博士のトランスファブルスキル	尾 立 大 輔 尾 立 大 輔 二 郎	理
第2回	4/17	電磁気学におけるベクトル技術活用	松 井 容 祐 氏 松 井 容 祐 氏	工
第3回	4/24	多相化学の機能性材料について ～材料イノベーションの最先端～	松 井 容 祐 氏 松 井 容 祐 氏	工
第4回	5/1	自分の力で身体能力を高める方法 ～運動科学の最先端～	松 井 容 祐 氏 松 井 容 祐 氏	工
第5回	5/8	ダイセルが目指すハイブリッドプロセスの創出 ～セルセラミックス材料の創出～	新 井 隆 氏 新 井 隆 氏	理
第6回	5/15	キャリアとしての学術出版	山 口 知 彦 氏 山 口 知 彦 氏	工
第7回	5/22	脳神経科学とAIで未来を予測する	山 口 知 彦 氏 山 口 知 彦 氏	工
第8回	5/29	失敗から学ぶ研究の進め方 ～これからの研究の進め方～	山 口 知 彦 氏 山 口 知 彦 氏	理
第9回	6/5	未来を拓く融合技術	山 口 知 彦 氏 山 口 知 彦 氏	理
第10回	6/12	特殊環境の最先端 ～極限環境の研究開発事例～	山 口 知 彦 氏 山 口 知 彦 氏	理
第11回	6/19	AI画像解析を用いた製造業への活用事例紹介	山 口 知 彦 氏 山 口 知 彦 氏	工
第12回	6/26	おもしろい科学から、おもしろい仕事へ ～科学者のキャリア開発～	山 口 知 彦 氏 山 口 知 彦 氏	工
第13回	7/3	プラズマ技術に関する最先端の研究開発、グローバル イノベーション	山 口 知 彦 氏 山 口 知 彦 氏	理
第14回	7/10	非平衡物理・技術者 ～非平衡物理の最先端～	山 口 知 彦 氏 山 口 知 彦 氏	理
第15回	7/31	慶お？学お？ まとめ	山 口 知 彦 氏 山 口 知 彦 氏	理

(1) 社会価値創造機構運営委員会

社会価値創造機構の運営に関し、次に掲げる事項を審議するため、社会価値創造機構運営委員会を設置している。また、関係機関との連携を図るため、学外の機関からも委員に就任いただいている。

社会価値創造機構

社会価値創造機構運営委員会

学内委員(25名)

(公財)新産業創造研究機構

兵庫県立工業技術センター

- ①社会価値創造の基本的事項に係る方針及び計画に関すること。
- ②機構の新規事業や既存事業の改廃に関すること。
- ③前2号に掲げるもののほか、機構長が審議することが必要と認める機構の運営に関する重要事項。

《令和8年度 社会価値創造機構運営委員》

区 分	所 属	職 名	氏 名
委員長	社会価値創造機構	社会価値創造機構長 (理事兼副学長)	畑 豊
副委員長	社会価値創造機構 (工学研究科)	社会価値創造機構副機構長 (教 授)	武尾 正弘
委 員	社会価値創造機構	本部長 (特任教授)	久保 貞夫
	社会価値創造機構	包括連携推進室長 (理事兼副学長)	畑 豊
	社会価値創造機構 (工学研究科)	人工知能研究教育センター長 (准教授)	森本 雅和
	社会価値創造機構	金属新素材研究センター長 (教 授)	竹内 章
	社会価値創造機構	放射光産業利用支援本部長 (理事兼副学長)	畑 豊
	社会価値創造機構	産学連携キャリアセンター長 (理事兼副学長兼)	畑 豊
	社会価値創造機構 (工学研究科)	水素エネルギー共同研究センター長 (教 授)	嶺重 温
	社会価値創造機構 (情報科学研究科)	データ計算科学連携センター長 (教 授)	安田 修悟
	社会価値創造機構 (環境人間学部)	地域創造センター長 (教 授)	杉山 武志
	社会価値創造機構 (高度産業科学技術研究所)	放射光産業利用支援本部長代行 (教 授)	原田 哲男
	社会価値創造機構	本部副本部長 (教 授)	竹内 章
	社会価値創造機構	研究戦略室長 (教 授)	竹内 章
	社会価値創造機構	知的財産マネジメント室長 (教 授)	竹内 章
	社会価値創造機構 (工学研究科)	新ビジネス育成センター長 (教 授)	河南 治
	社会価値創造機構	教 授	柴野 伸之
	国際商経学部	教 授	桑原 史郎
	社会情報科学部	教 授	笹嶋 宗彦
	工学研究科	教 授	永瀬 丈嗣
	理学研究科	教 授	稲木美紀子
	環境人間学部	教 授	杉山 武志
	看護学部	准教授	大村佳代子

委 員	情報科学研究科	教 授	笹嶋 宗彦
	地域資源マネジメント研究科	教 授	川村 教一
	減災復興政策研究科	教 授	阪本真由美
	社会科学研究科	准教授	小寺 倫明
	緑環境景観マネジメント研究科	教 授	大藪 崇司
	高度産業科学技術研究所	教 授	鈴木 哲
	自然・環境科学研究所	講 師	三橋 弘宗
	地域ケア開発研究所	教 授	本田 順子
	先端医療工学研究所	教 授	藤田 孝之
	(公財)新産業創造研究機構	専務理事	川村 昌志
	兵庫県立工業技術センター	次長(総括担当)兼総務部長	新井 隆浩
	本部 社会貢献部	部 長	有吉 智香

(2) 知的財産委員会

以下の事項を審査するため、学内に知的財産委員会を設置し、原則として毎月1回開催している。

- ①職務発明について本学が権利を取得するか決定
- ②特許出願
- ③審査請求
- ④権利の譲渡・放棄
- ⑤知的財産委員会の決定に対する教職員からの不服の申出
- ⑥その他審査が必要と認められる事項

知的財産委員会

学 内 委 員 (6名)
学 外 委 員 (1名)

《令和8年度 知的財産委員会》

会 長	社会価値創造機構 機構長	畑 豊
副会長	社会価値創造機構 副機構長	武尾 正弘
委 員	事務局長	陰山 晶彦
	社会貢献部長	有吉 智香
	社会価値創造機構 本部長	久保 貞夫
	社会価値創造機構 副本部長 兼 知的財産マネジメント室長	竹内 章
	公益財団法人 新産業創造研究機構 (NIRO)	技術移転部門 技術移転推進センター長 (TLO ひょうご所長) 泉 学 技術移転部門 技術移転推進センター 副センター長 (福岡 誠)

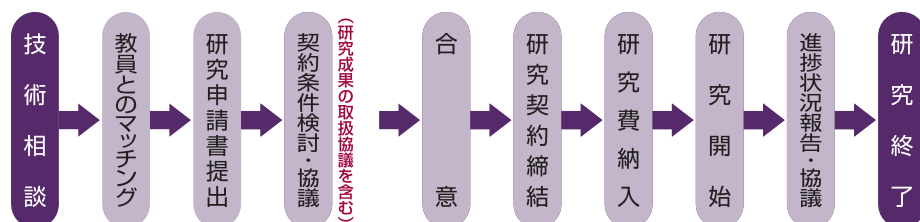
●社会価値創造機構業務概要

本部	① 大型プロジェクト研究・共同研究の提案、推進に関すること ② 国、自治体等による公募事業への対応に関すること ③ 大学主催、共催等による社会価値創造事業の提案、企画、実施体制等に関すること ④ 知的財産の創出、保護、管理及び活用に関すること ⑤ その他社会価値創造に係る業務に関すること
包括連携推進室	① 包括連携の推進に関すること ② 大型外部資金の獲得に関すること ③ その他事業実施に必要な業務に関すること
金属新素材研究センター	① 金属新素材の開発に関すること ② 3D造形技術の開発に関すること ③ 地域の技術力向上と技術普及の推進に関すること ④ その他事業実施に必要な業務に関すること
人工知能 研究教育センター	① 中小企業へのAI導入支援に関すること ② 人工知能等に係る在職者職業訓練に関すること ③ 人工知能等に係る学生向け教育プログラムに関すること ④ その他事業実施に必要な業務に関すること
放射光産業 利用支援本部	① SPring-8兵庫県ビームラインの産業利用支援に関すること ② ニュースパルの産業利用支援に関すること ③ SPring-8兵庫県ビームラインとニュースパルの連携利用のための環境整備に関すること ④ その他放射光にかかる産学連携・研究推進に関すること
産学連携 キャリアセンター	① 産学連携実践講義に関すること ② 企業との交流に関すること ③ インターンシップに関すること ④ 指導教員・研究主宰者の意識啓発に関すること ⑤ その他事業実施に必要な業務に関すること
水素エネルギー 共同研究センター	① 水素エネルギーの共同研究に関すること ② 他大学、研究機関との共同研究推進のための環境整備に関すること ③ 水素エネルギー社会実装にかかる産学連携・研究推進に関すること ④ その他事業実施に必要な業務に関すること
データ計算科学 連携センター	① ハイパフォーマンス・コンピューティングや計算科学、計算機科学、データ科学の分野での学内連携並びに他の大学、研究機関、企業等との教育交流や人材育成、研究交流の推進に関すること ② 神戸情報科学キャンパスに設置されているスーパーコンピュータの管理及び運用（安全保障輸出管理を含む） ③ 研究成果の発表及び刊行に関すること ④ その他事業実施に必要な業務に関すること
地域創造センター	① 自治体との連携に係る情報収集、相談及びマッチングに関すること ② 自治体との包括連携協定の締結及び推進に関すること ③ 地域創造人材の育成事業に関すること ④ その他事業実施に必要な業務に関すること

●共同研究・受託研究等

	共同研究	受託研究	研究助成
内 容	企業等から研究者及び研究経費等、又は研究経費を受け入れて、大学教員と共同研究相手方の研究者が対等の立場で共通の課題について共同で行う研究	企業等から研究費を受け入れ、委託された課題について行う研究	学術研究の奨励を目的とした寄附金
研究成果の取扱い	原則として本学と共同研究相手方との共有とし、その貢献度に応じた持分割合とする	本学への帰属を原則とする	本学へ帰属する

共同研究・受託研究の申込手順



提出書類の様式は
社会価値創造機構ホームページから取り出すことができます。(https://uh-sangaku.jp/joint-research-style/)

●社会価値創造機構コーディネーター等紹介（令和8年6月1日現在）



教授兼
本部副本部長

竹内 章

akira_takeuchi@hq.u-hyogo.ac.jp



特任教授兼本部長兼
リサーチ・アドミニストレーター

久保 貞夫

kubo_sadao@hq.u-hyogo.ac.jp



研究企画コーディネーター

石原 嗣生

tsuguo_ishihara@ofc.u-hyogo.ac.jp



研究企画コーディネーター

村井 謙一

murai_kenichi@hq.u-hyogo.ac.jp



研究企画コーディネーター

辻井 信博

tsujii_nobuhiro@hq.u-hyogo.ac.jp



特任教授兼リサーチ・アドミニストレーター
兼知的財産コーディネーター

藤田 光男

mitsuo_fujita@ofc.u-hyogo.ac.jp



知的財産コーディネーター

村上 昭二

murakami_shoji@hq.u-hyogo.ac.jp



産学連携推進員

小幡 和義

kazuyoshi_obata@ofc.u-hyogo.ac.jp



教授

柴野 伸之

nobuyuki_shibano@hq.u-hyogo.ac.jp



特任教授兼
リサーチ・アドミニストレーター

大内 裕史

ouchi_hirofumi@hq.u-hyogo.ac.jp



研究企画コーディネーター

松原 弘明

matsubara_hiroaki@hq.u-hyogo.ac.jp



研究企画コーディネーター

吉村 雅也

yoshimura_masaya@hq.u-hyogo.ac.jp



技術移転コーディネーター

辻井 浩一

tsujii@hq.u-hyogo.ac.jp



知的財産コーディネーター

塩飽 豊明

shiwaku.toyoaki@hq.u-hyogo.ac.jp



非常勤研究員

竹内 博之

takeuchi.hiro001@hq.u-hyogo.ac.jp

●産学連携・研究支援に関する相談窓口●

<社会価値創造機構> 〒670-0962 姫路市南駅前町 123 番地 じばさんびる 3 階
TEL : 079 (283) 4560 FAX : 079 (283) 4561 E-mail:sangaku@hq.u-hyogo.ac.jp

●研究者マップ

本学の研究成果・知的資産を“見える形”で社会に還元できるよう、全教員の研究分野をわかりやすく俯瞰的に示した「研究者マップ」を作成しました。「テクノロジー編」、「ビジネス編」、「DX 編」とで構成され、研究項目毎に該当する教員の専門性を表すキーワード及び教員名を記しています。

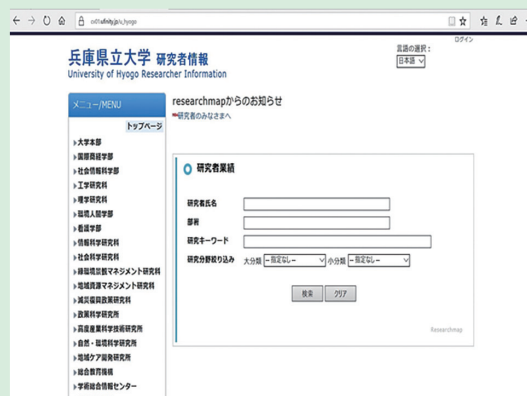


●研究者データベース

技術相談等の産学連携に資するため、本学教員の研究内容等をインターネットで検索出来る研究者データベースを構築しています。

教員のプロフィール、研究内容、所属学会、役職、所属、著作、論文、業績、得意な講演テーマ等が掲載されており、キーワードによる検索もできます。

大学ホームページ (<https://www.u-hyogo.ac.jp/>) のトップ画面に「兵庫県立大学 研究者情報」のアイコンがあります。



●社会価値創造機構の沿革

- | | |
|----------------|--|
| 平成 7 年 (1995年) | 姫路工業大学 (現兵庫県立大学) 工学部産学交流推進委員会、同年設立の姫路産学交流会 (現はりま産学交流会) と産学交流活動開始 |
| 平成11年 (1999年) | 工学部産学交流推進委員会を全学委員会に組織変更 |
| 平成12年 (2000年) | 姫路書写キャンパス (現姫路工学キャンパス) に姫路工業大学産学交流センターを開設 |
| 平成16年 (2004年) | 兵庫県立大学発足、大学本部に産学連携センター、姫路書写キャンパスに姫路産学連携センターを開設、2 活動拠点体制 |
| 平成19年 (2007年) | 姫路書写キャンパスにインキュベーションセンターを開設 (2 月) |
| 平成23年 (2011年) | 姫路駅前「じばさんびる」内に産学連携機構を開設、拠点統合、テクノロジーサポートセンター、ビジネスサポートセンターを設置 |
| 平成24年 (2012年) | 兵庫県立工業技術センター内に神戸ブランチを開設 (10月) |
| 平成25年 (2013年) | 公立大学法人に移行、知的財産本部を機構内に移設、SPring-8 兵庫県ビームラインの管理運営委託、産学公連携推進本部、知的財産本部、放射光産業利用支援本部、産学連携キャリアセンターの 4 部体制 |
| | 次世代水素触媒共同研究センターを開設 (12月) |
| 平成26年 (2014年) | 産学連携・研究推進機構に改称、計算科学連携センターを開設 |
| 平成30年 (2018年) | SPring-8兵庫県ビームラインをひょうご科学技術協会へ移管 (4 月) |
| 平成31年 (2019年) | 人工知能研究教育センター、金属新素材研究センターを開設 (4 月) |
| | 次世代水素触媒共同研究センターを水素エネルギー共同研究センターに改称 (4 月) |
| 令和 3 年 (2021年) | 先端医工学研究センター (AMEC) を工学研究科より移管 (4 月) |
| | 計算科学研究センターをデータ計算科学研究センターに改称 (4 月) |
| 令和 4 年 (2022年) | 先端医療工学研究所設立により、医産学連携推進本部を医産学連携ブランチに移行 (4 月) |
| 令和 6 年 (2024年) | 産学連携・研究推進機構と地域創造機構を統合し、社会価値創造機構を開設、機構内に地域創造センターを設置 (4 月) |
| 令和 7 年 (2025年) | 新長田キャンパスプラザに新長田ブランチを開設 (1 月) |
| | 機構内に包括連携推進室を設置 (4 月) |

令和 8 年度 兵庫県立大学
社会価値創造機構
年報

<発行>

令和 8 年 7 月

社会価値創造機構

〒670-0962 姫路市南駅前町123番地 じばさんびる3階
TEL : 079(283)4560 FAX : 079(283)4561
E-mail:sangaku@hq.u-hyogo.ac.jp

自然・環境科学研究所(宇宙天文系)

〒679-5313 佐用郡佐用町西河内407-2
TEL.0790(82)3886

播磨理学キャンパス

(理学部、理学研究科)

〒678-1297 赤穂郡上郡町光都3丁目2-1
TEL.0791(58)0101

高度産業科学技術研究所

〒678-1205 赤穂郡上郡町光都3丁目1-2
TEL.0791(58)0249

附属高等学校・附属中学校

〒678-1205 赤穂郡上郡町光都3丁目11-1(高等学校)
赤穂郡上郡町光都3丁目11-2(中学校)
TEL.0791(58)0722(高等学校)
TEL.0791(58)0735(中学校)

姫路工学キャンパス(工学部、工学研究科)

〒671-2280 姫路市書写2167
TEL.079(266)1661

社会価値創造機構

〒670-0962 姫路市南駅前町123番地 じばさんびる3階
TEL.079(283)4560



先端医療工学研究所

〒670-0836 姫路市神屋町3丁目264
兵庫県立はりま姫路総合医療センター教育研修棟3階
TEL.079(280)1248

姫路環境人間キャンパス(環境人間学部、環境人間学研究科)

〒670-0092 姫路市新在家本町1丁目1-12
TEL.079(292)1515

自然・環境科学研究所(地域資源マネジメント系)

〒668-0814 豊岡市祥雲寺字ニヶ谷128
TEL.0796(23)5666

豊岡ジオ・コウノトリキャンパス

(地域資源マネジメント研究科)

〒668-0814 豊岡市祥雲寺字ニヶ谷128
TEL.0796(34)6079

自然・環境科学研究所(森林・動物系)

〒669-3842 丹波市青垣町沢野940
TEL.0795(80)5500

自然・環境科学研究所(自然環境系)

〒669-1546 三田市弥生が丘6
TEL.079(559)2001

神戸商科キャンパス

(大学本部、国際商経学部、社会情報科学部、
社会科学研究科、情報科学研究科、
ソーシャルデータサイエンス研究所、
高等教育推進機構、国際交流機構、学生支援機構、
学術総合情報センター)

〒651-2197 神戸市西区学園西町8丁目2-1
TEL.078(794)6580(大学本部、機構)
TEL.078(794)5184(学部、研究科、センター)
TEL.078(794)5302(研究所)

神戸情報科学キャンパス(情報科学研究科)

〒650-0047 神戸市中央区港島南町7丁目1-28
TEL.078(303)1901

神戸防災キャンパス(減災復興政策研究科)

〒651-0073 神戸市中央区協浜海岸通1丁目5-2
人と防災未来センター東館内
TEL.078(891)7376

明石看護キャンパス(看護学部、看護学研究科)

〒673-8588 明石市北王子町13-71
TEL.078(925)0860

地域ケア開発研究所

〒673-8588 明石市北王子町13-71
TEL.078(925)9605

新長田ランチ

〒653-0036 神戸市長田区腕塚町5丁目2-1
新長田キャンパスプラザ5階
TEL.078(754)6900

淡路緑景観キャンパス(緑環境景観マネジメント研究科)

〒656-1726 淡路市野島常盤954-2
TEL.0799(82)3131

自然・環境科学研究所(景観園芸系)

〒656-1726 淡路市野島常盤954-2
TEL.0799(82)3131